

公益財団法人 がんの子どもを守る会
2020年度事業報告書

2020年4月1日～2021年3月31日

CCA J ANNUAL REPORT
Apr.01,2020～ Mar.31,2021



公益財団法人 がんの子どもを守る会

Children's Cancer Association of Japan

〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-3-12

電話:03-5825-6311 (代表)

03-5825-6312 (相談)

<http://www.ccaj-found.or.jp/>

がんの子どもを守る会

検 索



CCA J

公益財団法人 がんの子どもを守る会

Children's Cancer Association of Japan

CONTENTS

	理事長あいさつ	1
	組織概要	2
	会の歴史	4
	2020年度収支報告	6
	2020年度の事業概況	
	①療養援助事業	10
	②相談事業及び関連事業	11
	③治療研究事業	16
	④総合支援施設運営事業	18
	⑤小児がん・難病対策	19
	⑥支部活動	20
	⑦広報・啓発・募金活動 等	21
	⑧国際活動	26
	⑨奨学金事業	26
	⑩ボランティアコーディネート・研修会	27
	⑪調査研究協力	27
	⑫2020年度年次大会開催	28
	⑬クリスマスプレゼント	28
	⑭企業・団体からのご協力	29
	寄付・募金者一覧	30

がんの子どもを守る会とは

1968年10月に小児がんで子どもを亡くした親たちによって、小児がんが治る病気になってほしい、また小児がんの子どもを持つ親を支援しようという趣旨のもと設立され、子どもの難病である小児がんに関する知識の普及、相談、調査・研究、支援、宿泊施設の運営、その他の事業を行い、社会福祉及び国民保健の向上に寄与することを目的としています。小児がんは医学の進歩に伴って「不治の病」から「治る病気」になりつつあります。しかし、未だ病死順位の1位であること、たとえ治療を終えても小児がんの患児とその家族はさまざまな問題を抱えているのが実情です。当会は患児・家族が直面している困難や悩みを少しでも軽減すべく、多くの方々の支援のもとに活動をしています。

理事長あいさつ

公益財団法人がんの子どもを守る会
理事長 山下 公輔



2020年度事業報告書の発行に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

昨年5月、2019年度の事業報告書の発刊にあたってのご挨拶を緊急事態宣言発令下で書きましたが、1年後の今、新たな事業報告書のためのこの一文を多くの地域で再び緊急事態宣言が出されている中で書くことになろうとは思ってもおりませんでした。既に1年以上続いている、新型コロナの蔓延による厳しい環境下で小児がんの患児や家族そして経験者の支援に携わって頂いている全国各地の皆様のご努力とご苦労に心から感謝いたします。

この1年、私たちががんの子どもを守る会はこれまでに経験したことの無い事態の下で、出来る限り通常通りの事業活動遂行を目指してまいりましたが、ご支援いただいている皆様に支えられながら、なんとか厳しかった2020年度を乗り切ることが出来、本事業報告書を無事発行出来る運びとなりました。

とは申しまして、2020年度はその全体に亘って、新型コロナ感染が止まらない中での制限の多い活動とならざるを得ず、経済面でも厳しい状況となりました。詳しくは本報告書をお読みいただきたいと思います。最終的に例年とは大きくは変わらない収支バランスの決算となりましたが、それは制限の多かった事業活動による支出低減により、例年に比べ減少したご寄付による収入の不足を補うことが出来たという、いわば縮小均衡的な結果でございました。

事業活動の面では、出来る限り通常通りの事業活動遂行を目指したと申しましたが、やはり様々な面で制限は多く、年次大会や講演会等を全てWeb実施とし、全国の支部を含めた地方での集会等も中止或いはWeb実施にするなどに加え、啓発や寄付をお願いするイベント等はほとんど全て中止となりました。Webを活用した活動は、新たな仕組みとして一定の効果と効率性の向上というプラス面もあったのは事実であり、支出面でも交通費や会場費の削減という効果はありました。しかし、本来目指す活動成果の発揮や対面での相互理解、

更には皆様に直接お目にかかってのご支援の願いなどの面で、やはり大きなハンディキャップであったことは間違いありません。

このような状況ではあり、上述のように事業活動の縮小傾向は否めませんでしたが、一方でそれを乗り越えての新たな活動も始まっております。一例として、休眠預金等活用法に基づく助成金を受けた長期フォローアップ・ロス把握プロジェクトや、がん対策推進基本計画改定に向けた提言に関するプロジェクトなど、大きな課題への取り組みに着手することが出来ました。これらの新たな活動の具体的な成果は次年度以降になりますが、新型コロナウィルス禍にめげずに、やらなければならない活動を積極的に前に進めるという姿勢が実を結び始めております。

これらを含め2020年度の事業活動は、新型コロナウィルス禍の影響をなんとか最小限にとどめ、新たな事業にも着手することが出来たと前向きな総括が出来る内容であったことを嬉しく思っております。常日頃から当会の活動に多大なご支援を頂いている皆さま、事業活動に参加してくださっている方々、そして日々の活動を担う事務局職員の皆さんに改めて御礼申し上げます。

昨年の事業報告書の挨拶文の末尾で、新型コロナウィルスによる苦境は小児がん患児・家族だけでなく、小児がん患児・家族に心を寄せていただいているご支援者の方々全てに負いかぶさる暗雲であり、日本だけでなく世界中のいたるところで我々の仲間が共に戦っていると申し上げました。そして、世界の小児がん患児・家族や支援者が共有するキーワード、“You are not alone”（あなた方は一人ぼっちではない）“We are not alone”（私たちは一人ぼっちではない）という呼びかけに言及しました。

あれから一年、大変残念な事に厳しい環境は変わらないどころか内外で悪化している地域も多くあります。改めまして当会が2020年度を無事に乗り越えることができましたことに感謝するとともに、引き続き“‘You are not alone’ / ‘We are not alone’”の声の輪を皆様と共有しながら、この厳しい状況を乗り越えて参りたいと願っております。

2021年5月15日



組織概要

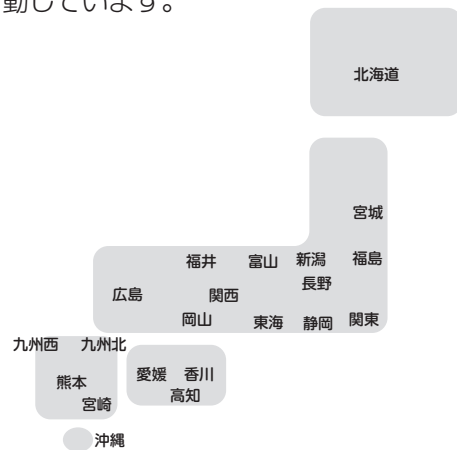
※ 2021 年 3 月 31 日現在

名 称	公益財団法人　がんの子どもを守る会
設 立	1968年10月31日
設 立 趣 旨	当会は、1968年10月に小児がんで子どもを亡くした親たちによって、小児がんが治る病気になってほしい、また小児がんの子どもを持つ親を支援しようという趣旨のもとに設立されました。
主 務 官 庁	内閣府
主たる事務所	浅草橋　住所：〒111-0053　東京都台東区浅草橋1-3-12 TEL：03-5825-6311(代表)　FAX：03-5825-6316
従たる事務所	亀 戸　住所：〒136-0071　東京都江東区亀戸6-24-4 TEL：03-3638-6551(代表)　FAX：03-3638-6553 大 阪　住所：〒541-0057　大阪府大阪市中央区北久宝寺町2-3-1 TEL：06-6263-1333(代表)　FAX：06-6263-2229
組 織	理 事　11名（理事長1名、副理事長3名） 監 事　1名 評 議 員　11名 職 員　30名 普通会员　1751名 賛助会員　254名（法人16社、個人238名）

支 部	当会には全国に21の支部があります。各地域の会員ボランティアにより組織され、地元の医療関係者等の協力を得ながら、各地のニーズにあわせた相談会や交流会などを開催し、患児・家族と医療関係者のコミュニケーションを深めるとともに、患児・家族のよりよい療養生活の実現を目指して活動しています。
-----	---

21支部

北海道、宮城、福島、長野、新潟、福井、富山、関東、静岡、東海、関西、岡山、広島、香川、愛媛、高知、九州北、九州西、熊本、宮崎、沖縄



役 員 名 簿

理 事 長	
山下 公輔	親/元 PwC アドバイザリー合同会社 シニアアドバイザー
副理事長	
細谷 亮太	当会囑託医/聖路加国際病院 顧問
近藤 博子	親/元 当会ソーシャルワーカー
増子 孝徳	親/弁護士
理 事	
橋都 浩平	株式会社メディカルノート 社外取締役/ 株式会社ジャパン・メディカルカンパニー 取締役/ 元 東京大学医学部附属病院 小児外科 教授 認定NPO法人ゴールドリボン・ネットワーク 理事長/ 元 アフラック生命保険株式会社 会長
松井 秀文	親/当会九州北支部 幹事
張 光陽	親/当会福井支部 代表幹事
坪田 起久恵	親/当会関西支部 代表幹事/NPO法人日本クリニックラウン協会 理事
森下 さふみ	親/当会会員
田中 徹	常務理事/当会事務局長
石川 幹雄	
監 事	
三川 勝夫	親/三川会計事務所 代表
評 議 員	
河 敬世	大阪母子医療センター 顧問
深澤 重幸	親/コトブキシーティング株式会社 代表取締役会長
西田 知佳子	元 聖路加国際病院 医療社会事業科 ソーシャルワーカー
平野 朋美	社会福祉法人桜楓会 医療型障害児入所施設カリヨンの杜連携室 ソーシャルワーカー
幸島 静枝	親/当会会員
稲田 浩子	社会福祉法人ゆかり学園ゆかり医療療育センター小児科 部長
鈴木 中人	親/当会東海支部 代表幹事
隈部 俊宏	北里大学医学部 脳神経外科 主任教授
本橋 由紀	株式会社毎日新聞社 編集編成局 編集委員
舛本 大輔	小児がん経験者
丸山 謙一郎	小児がん経験者

療養援助委員会	
前田 美穂	日本医科大学付属病院 小児科 名誉教授
黒田 達夫	慶應義塾大学 医学部 小児外科 教授
柳澤 隆昭	東京慈恵会医科大学附属病院 脳神経外科 教授
小澤 美和	聖路加国際病院 小児科 医長
松本 公一	国立成育医療研究センター 小児がんセンター長
川井 章	国立がん研究センター中央病院 希少がんセンター長/ 骨軟部腫瘍・リハビリテーション科長
康 勝好	埼玉県立小児医療センター 血液腫瘍科 部長兼科長

調査研究委員会	
橋都 浩平	当会理事
細谷 亮太	当会副理事長/当会囑託医
星 順隆	元 東京慈恵会医科大学附属病院 輸血部
上別府 圭子	東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻 家族看護学分野 教授
岩田 敬治	当会最高相談役
増子 孝徳	当会副理事長
山下 公輔	当会理事長

治療研究委員会	
山下 公輔	当会理事長
黒田 達夫	慶応義塾大学 医学部 小児外科 教授
小原 明	東京工科大学 医療保健学部 看護学科 特任教授
小澤 美和	聖路加国際病院 小児科 医長
陳 基明	さくら耳鼻科小児科医院 副院長
菱木 知郎	千葉大学大学院医学研究院 小児外科学 教授
丸 光恵	甲南女子大学 看護リハビリテーション学部 教授
〈専門委員〉	
野崎 美和子	獨協医科大学 特任教授/ 獨協医科大学埼玉医療センター 放射線治療センター長
逸見 仁道	東邦大学医学部医学教育センター 客員講師
中澤 温子	埼玉県立小児医療センター臨床研究部 部長

小児がん経験者・がん遺児奨学金制度選考委員会

鎌田 薫	早稲田大学前総長
関谷 亜矢子	元 日本テレビアナウンサー
細井 創	日本小児血液・がん学会 理事長
松井 秀文	当会理事
増子 孝徳	当会副理事長
沢辺 隆雄	産経新聞 論説副委員長

SMSキャンブ委員会

稲田 浩子	当会評議員
高木 正稔	東京医科歯科大学 発生発達病態学分野・小児科 准教授
飯田 宏美	さいわいこどもクリニック 在宅診療部
渡邊 輝子	済生会横浜市東部病院 看護部長
本橋 由紀	当会評議員

富士山キャンブ委員会

別所 文雄	日本医療科学大学 保健医療学部 医療基礎教育科/ 杏林大学医学部付属病院 小児科
小澤 美和	聖路加国際病院 小児科 医長
安野 啓一郎	長崎県立こども医療福祉センター
高土 陽一郎	当会ボランティア

名誉顧問	
柳田 邦男	作家



会の歴史

(年度)	
1962	設立趣意書作成
1966	NHKカメラリポートで紹介
1967	「がんの子供を助ける親の会」準備会
1968	2.25 「親の会」設立総会 10.31 「財団法人 がんの子供を守る会」として設立許可 11.18 治療研究委員会発足 12.27 緊急医療費援助開始、第1号患者2名に援助金
1969	小児がん全国登録開始
1970	関西支部設立総会 小児がん公費負担について厚生大臣に陳情
1971	陳情により、小児がん治療費の公費負担が実現
1972	九州支部設立総会 北海道支部設立総会 療養費援助を一般と特別に区分し援助開始。特別療養費審査会発足
1973	映画企画委員会発足 専任ケースワーカー設置
1974	48年度小児がん映画完成公開 静岡支部設立総会 全国登録委員会発足
1975	愛知支部設立総会 49年度小児がん映画完成公開 埼玉支部設立総会 パンフレット「こどものがん」刊行
1976	特定公益増進法人の認定
1978	本会に嘱託医を設置 創立10周年記念講演と映画の会
1979	長野支部設立総会 創立10周年記念・国際児童年記念小児がん国際シンポジウム
1981	新潟支部設立総会
1984	日本小児がん研究会発足
1985	第1回日本小児がん研究会（東京）（平成3年以降「日本小児がん学会」）
1986	竹中相談役・顧問に藍緩褒章
1989	創立20周年記念・第2回小児がん国際シンポジウム
1991	小冊子「がんとたたかう子とともに」刊行 宮城支部設立総会
1993	愛媛支部設立総会 小児がん経験者の会「フェロー・トゥモロー（F.T）」結成
1994	小冊子「子どものがん」、疾病別リーフレット刊行
1995	宿泊施設「あかつきハウス」開設 岡山支部設立総会
1996	東京支部HOPE設立総会 学習ボランティア研修会開始（モデル事業）
1997	国際小児がん親の会連盟（ICCCPO）加入
1998	創立30周年記念第30回SIOP国際小児がん学会親の会会議
1999	九州支部、北・西・南の3支部に分割 清瀬小児病院の敷地内にある「たけのこハウス」、東京都中央区にある「あかしハウス」を東京都衛生局より委託（2002年度まで受託）
2000	「小児がん患児とその家族の支援に関するガイドライン」刊行 岩田理事長に藍緩褒章
2001	「アフラックペアレンツハウス亀戸」が完成、事務所移転

(年度)	
2002	「がんの子どもの教育支援に関するガイドライン」刊行 愛知支部が東海支部となる 広島支部設立総会
2003	九州南支部が熊本支部となる 鹿児島支部設立総会 埼玉支部と東京支部HOPEが合併 関東支部となる
2004	福井支部設立総会 香川支部設立総会 沖縄支部設立総会 「アフラックペアレンツハウス浅草橋」が完成、亀戸より事務所移転
2006	小児がん経験者の支援と社会への啓発を目的としたゴールドリボン基金を設立 「小児がん経験者のためのガイドライン～よりよい生活をめざして～」刊行
2007	ゴールドリボンウォーキング2007開催（東京） 富山支部設立総会
2008	創立40周年記念事業がんの子どもと家族を支援する公開シンポジウム（千葉） 第1回小児がん経験者自立支援助成金
2009	「アフラックペアレンツハウス大阪」が完成/大阪事務所開設 高知支部設立総会
2010	「この子のためにできること 緩和ケアのガイドライン」刊行 福島支部設立総会
2011	東日本大震災緊急療養援助実施
2012	公益財団法人移行認定 鹿児島支部が鹿児島・宮崎支部となる
2013	「小児がん経験者及びがん遺児に対する奨学金給付事業」の認定 岩田最高相談役及び西村顧問に当会より特別功労賞を授与
2014	奨学金事業「アフラック小児がん経験者・がん遺児奨学金制度」を開始 厚生労働省に「難病及び小児慢性特定疾病対策・小児がん対策の充足を求める請願書」を提出 文部科学省に「小児がん患児が切れ目なく教育を受けることができる教育整備の充足を求める請願書」を提出 「小児がん経験者のためのハンドブック」刊行 「小児がんの子どものきょうだいのきもち」刊行 鹿児島・宮崎支部が宮崎支部となる
2015	第29回日本医学会総会2015関西 疾患啓発イベント「分かちあう気持ち、支えあう笑顔 小児がん医療の姿～いま そして これから～」開催 アフラックペアレンツハウス浅草橋10周年記念イベント開催 「小児がん こどもでんわ相談室」開設
2016	当会、一般社団法人日本小児血液・がん学会及び特定非営利活動法人日本小児がん看護学会の 連名で厚生労働省に対し「小児がん対策に関する要望書」を提出 「小児がんの子どものきょうだいたち」刊行
2017	アフラックペアレンツハウス浅草橋及び亀戸 業務委託から直営による運営を開始 アフラックペアレンツハウス浅草橋及び亀戸 施設の拡充を目的とする改修・改装工事の実施 アフラックペアレンツハウス浅草橋 リニューアルオープン
2018	アフラックペアレンツハウス亀戸リニューアルオープン 創立50周年記念式典開催（東京） 創立50周年記念誌発行 国際小児がんの会（CCI）/第50回国際小児がん学会（SIOP）京都開催（運営参画）
2019	アフラックペアレンツハウス大阪 開設10周年（2020年1月） 第3期がん対策推進基本計画推進にむけた小児がん患者・家族からの要望（要望書）提出 小児慢性特定疾病対策見直しにむけた小児がん患者・家族からの要望（要望書）提出 接種済みワクチン再接種費用助成の要望について（要望書）提出
2020	コロナ禍により年次大会をWeb開催/テーマ「小児がんの移行期医療」 アンケート「新型コロナウイルス感染症による小児がん患者・家族の治療・生活への影響について」実施 小児がん対策の更なる充足についての要望書（厚生労働省）提出 切れ目なく教育を受けることができる教育環境の充足を求める要望書（文部科学省）提出



2020年度収支報告

(2020年4月1日～
2021年3月31日)



正味財産増減計算書内訳表

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	合 計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
財産運用益	5,279,038			5,279,038
普通預金利息	3,739			3,739
定期預金利息	36,128			36,128
投資有価証券利息	5,239,171			5,239,171
受取寄付金	251,282,297		48,701,868	299,984,165
特定寄付金	5,592,880			5,592,880
一般寄付金	48,701,868		48,701,868	97,403,736
受取寄付金振替額	196,987,549			196,987,549
受取協賛金	1,500,000			1,500,000
ゴールドリボン協賛金収入	1,500,000			1,500,000
受取補助金等	5,587,880			5,587,880
受取補助金等振替額	5,587,880			5,587,880
受託料	1,315,156			1,315,156
調査研究受託料	999,000			999,000
相談支援受託料	316,156			316,156
受取利用料	1,293,550			1,293,550
施設利用料	1,087,800			1,087,800
リネン利用料	205,750			205,750
雑収益	951,323	900,000		1,851,323
雑収益	951,323	900,000		1,851,323
経常収益計	267,209,244	900,000	48,701,868	316,811,112
(2) 経常費用				
事業費	297,730,067	1,832,402		299,562,469
人件費	80,617,435			80,617,435
法定福利費	9,865,317			9,865,317
給与	67,783,108			67,783,108
福利厚生費	50,550			50,550
退職給付費用	2,918,460			2,918,460
助成費	30,587,993			30,587,993
療養助成費	16,865,993			16,865,993
治療研究助成費	7,122,000			7,122,000
調査研究助成費	6,600,000			6,600,000
活動費	63,243,524	1,732,155		64,975,679
会議費	29,789			29,789
旅費交通費	587,930			587,930
通信運搬費	6,120,723			6,120,723
消耗品費	2,984,452			2,984,452
修繕費	6,190,954	1,380,445		7,571,399
印刷製本費	1,653,543			1,653,543
光熱水料費	7,442,982			7,442,982
保険料	517,956	18,610		536,566
諸謝金	640,363			640,363
業務委託費	722,568			722,568
広報費	4,573,804			4,573,804
支援費	835,038			835,038
図書資料費	370,199			370,199
保健衛生費	389,681			389,681
ゴールドリボン制作費	1,503,810			1,503,810
宿泊施設運営費	821,075			821,075
租税公課	9,254,200	71,700		9,325,900
リネン賃借料	248,721			248,721
事業協力費				0
会場費	5,400			5,400
雑費	2,290,625	44,440		2,335,065
保守料	8,718,848	216,960		8,935,808
リース料	2,284,996			2,284,996
植栽管理費	176,000			176,000
借地料	845,940			845,940
衛生管理費	1,995,290			1,995,290
消耗什器備品費	2,038,637			2,038,637
減価償却費	29,311,115	100,247		29,411,362
建物減価償却額	26,891,643	100,247		26,991,890
建物附属設備減価償却額	2,024,941			2,024,941
ソフトウェア減価償却額	129,600			129,600

科 目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	合 計
什器備品減価償却額	264,931			264,931
奨学金給付費	93,970,000			93,970,000
奨学金給付費	93,970,000			93,970,000
管理費			28,304,037	28,304,037
人件費			18,864,797	18,864,797
給与			14,560,358	14,560,358
法定福利費			2,340,600	2,340,600
福利厚生費			18,199	18,199
退職給付費用			1,945,640	1,945,640
活動費			8,363,523	8,363,523
会議費			7,956	7,956
旅費交通費			20,303	20,303
通信運搬費			430,069	430,069
消耗品費			47,538	47,538
修繕費			99,000	99,000
印刷製本費			827,810	827,810
図書資料費			37,966	37,966
保守料			451,088	451,088
リース料			3,173,176	3,173,176
支払報酬			2,420,000	2,420,000
租税公課			10,200	10,200
消耗什器備品費				0
雑費			838,417	838,417
減価償却費			1,075,717	1,075,717
ソフトウェア減価償却額			243,216	243,216
什器備品減価償却額			832,501	832,501
経常費用計	297,730,067	1,832,402	28,304,037	327,866,506
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 30,520,823	△ 932,402	20,397,831	△ 11,055,394
評価損益等計	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 30,520,823	△ 932,402	20,397,831	△ 11,055,394
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	0
(2) 経常外費用				
固定資産除却損	18	0	0	18
経常外費用計	18	0	0	18
当期経常外増減額	△ 18	0	0	△ 18
他会計振替前当期一般正味財産増減額	△ 30,520,841	△ 932,402	20,397,831	△ 11,055,412
他会計振替額				0
税引前当期一般正味財産増減額				
法人税・住民税及び事業税		△ 190,000		△ 190,000
当期一般正味財産増減額	△ 30,520,841	△ 1,122,402	20,397,831	△ 11,245,412
一般正味財産期首残高	471,746,042	367,199	139,348,546	611,461,787
一般正味財産期末残高	441,225,201	△ 755,203	159,746,377	600,216,375
II 指定正味財産増減の部				
受取補助金等	6,091,097			6,091,097
受取助成金	6,091,097			6,091,097
助成金	6,091,097			6,091,097
受取寄付金	194,682,008			194,682,008
指定寄付金	194,682,008			194,682,008
三重ファミリールーム指定寄付金	890,000			890,000
施設運営指定寄付金	116,199,182			116,199,182
奨学金指定寄付金	77,592,826			77,592,826
固定資産取得				0
特定資産評価損益	△ 8,509,810			△ 8,509,810
一般正味財産への振替額	△ 202,575,429			△ 202,575,429
指定寄付金	△ 196,987,549			△ 196,987,549
受取助成金等	△ 5,587,880			△ 5,587,880
当期指定正味財産増減額	6,707,486			6,707,486
指定正味財産期首残高	2,048,597,033			2,048,597,033
指定正味財産期末残高	2,055,304,519			2,055,304,519
III 正味財産期末残高	2,496,529,720	△ 755,203	159,746,377	2,655,520,894



正味財産増減計算書内訳表

(単位：円)

科 目	合 計	一般会計	AFLAC ペアレンツハウス 特別会計	三重ファミリ ールーム 特別会計	小児がん経験者・ がん遺児奨学金特 別会計	休眠預金等 活用助成事業 特別会計
I 一般正味財産増減の部						
1. 経常増減の部						
(1) 経常収益						
財産運用益	5,279,038	5,277,884	550	198	406	0
普通預金利息	3,739	2,585	550	198	406	0
定期預金利息	36,128	36,128	0	0	0	0
投資有価証券利息	5,239,171	5,239,171	0	0	0	0
受取寄付金	299,984,165	102,996,616	118,504,723	890,000	77,592,826	0
特定寄付金	5,592,880	5,592,880	0	0	0	0
一般寄付金	97,403,736	97,403,736	0	0	0	0
受取寄付金振替額	196,987,549	0	118,504,723	890,000	77,592,826	0
受取協賛金	1,500,000	1,500,000	0	0	0	0
ゴールドリボン協賛金収入	1,500,000	1,500,000	0	0	0	0
受取補助金等	5,587,880	1,038,872	0	0	0	4,549,008
受取補助金等振替額	5,587,880	1,038,872	0	0	0	4,549,008
受託料	1,315,156	1,315,156	0	0	0	0
調査研究受託料	999,000	999,000	0	0	0	0
相談支援受託料	316,156	316,156	0	0	0	0
受取利用料	1,293,550	16,000	1,244,250	33,300	0	0
施設利用料	1,087,800	16,000	1,038,500	33,300	0	0
リネン利用料	205,750	0	205,750	0	0	0
雑収益	1,851,323	1,499,400	351,923	0	0	0
雑収益	1,851,323	1,499,400	351,923	0	0	0
経常収益計	316,811,112	113,643,928	120,101,446	923,498	77,593,232	4,549,008
(2) 経常費用						
事業費	299,562,469	71,531,740	120,101,446	3,163,267	100,217,008	4,549,008
人件費	80,617,435	23,831,893	48,585,542	0	4,000,000	4,200,000
法定福利費	9,865,317	3,461,292	5,904,025	0	500,000	0
給与	67,783,108	17,452,141	42,630,967	0	3,500,000	4,200,000
福利厚生費	50,550	0	50,550	0	0	0
退職給付費用	2,918,460	2,918,460	0	0	0	0
助成費	30,587,993	30,587,993	0	0	0	0
療養助成費	16,865,993	16,865,993	0	0	0	0
治療研究助成費	7,122,000	7,122,000	0	0	0	0
調査研究助成費	6,600,000	6,600,000	0	0	0	0
活動費	64,975,679	17,011,607	43,985,921	1,400,188	2,247,008	330,955
会議費	29,789	19,120	803	0	9,866	0
旅費交通費	587,930	508,086	50,584	7,000	22,260	0
通信運搬費	6,120,723	2,848,910	2,531,406	52,187	631,398	56,822
消耗品費	2,984,452	1,687,753	1,098,547	27,950	23,562	146,640
修繕費	7,571,399	1,380,445	6,190,954	0	0	0
印刷製本費	1,653,543	800,445	208,696	0	644,402	0
光熱水料費	7,442,982	0	7,234,305	208,677	0	0
保険料	536,566	83,340	453,226	0	0	0
諸謝金	640,363	540,130	0	0	0	100,233
業務委託費	722,568	0	597,300	125,268	0	0
広報費	4,573,804	4,573,804	0	0	0	0
支援費	835,038	835,038	0	0	0	0
図書資料費	370,199	23,380	346,819	0	0	0
保健衛生費	389,681	0	339,681	50,000	0	0
ゴールドリボン制作費	1,503,810	1,503,810	0	0	0	0
宿泊施設運営費	821,075	821,075	0	0	0	0
租税公課	9,325,900	73,100	9,252,800	0	0	0
リネン賃借料	248,721	0	248,721	0	0	0
会場費	5,400	5,400	0	0	0	0
雑費	2,335,065	1,041,691	330,188	22,606	915,520	25,060
保守料	8,935,808	216,960	8,656,088	60,560	0	2,200
リース料	2,284,996	5,600	2,279,396	0	0	0
植栽管理費	176,000	0	176,000	0	0	0
借地料	845,940	0	0	845,940	0	0
衛生管理費	1,995,290	0	1,995,290	0	0	0
消耗什器備品費	2,038,637	43,520	1,995,117	0	0	0
減価償却費	29,411,362	100,247	27,529,983	1,763,079	0	18,053
建物減価償却額	26,991,890	100,247	25,174,909	1,716,734	0	0
建物附属設備減価償却額	2,024,941	0	2,024,941	0	0	0

科 目	合 計	一般会計	AFLAC ペアレンツハウス 特別会計	三重ファミリ ールーム 特別会計	小児がん経験者・ がん遺児奨学金特 別会計	休眠預金等 活用助成事業 特別会計
ソフトウェア減価償却額	129,600	0	129,600	0	0	0
什器備品減価償却額	264,931	0	200,533	46,345	0	18,053
奨学金給付費	93,970,000	0	0	0	93,970,000	0
奨学金給付費	93,970,000	0	0	0	93,970,000	0
管理費	28,304,037	28,304,037	0	0	0	0
人件費	18,864,797	18,864,797	0	0	0	0
給与	14,560,358	14,560,358	0	0	0	0
法定福利費	2,340,600	2,340,600	0	0	0	0
福利厚生費	18,199	18,199	0	0	0	0
退職給付費用	1,945,640	1,945,640	0	0	0	0
活動費	8,363,523	8,363,523	0	0	0	0
会議費	7,956	7,956	0	0	0	0
旅費交通費	20,303	20,303	0	0	0	0
通信運搬費	430,069	430,069	0	0	0	0
消耗品費	47,538	47,538	0	0	0	0
修繕費	99,000	99,000	0	0	0	0
印刷製本費	827,810	827,810	0	0	0	0
図書資料費	37,966	37,966	0	0	0	0
保守料	451,088	451,088	0	0	0	0
リース料	3,173,176	3,173,176	0	0	0	0
支払報酬	2,420,000	2,420,000	0	0	0	0
租税公課	10,200	10,200	0	0	0	0
雑費	838,417	838,417	0	0	0	0
減価償却費	1,075,717	1,075,717	0	0	0	0
ソフトウェア減価償却額	243,216	243,216	0	0	0	0
什器備品減価償却額	832,501	832,501	0	0	0	0
経常費用計	327,866,506	99,835,777	120,101,446	3,163,267	100,217,008	4,549,008
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 11,055,394	13,808,151	0	△ 2,239,769	△ 22,623,776	0
評価損益等計	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 11,055,394	13,808,151	0	△ 2,239,769	△ 22,623,776	0
2. 経常外増減の部						
(1) 経常外収益						
経常外収益計	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用						
固定資産除却損	18	13	5	0	0	0
経常外費用計	18	13	5	0	0	0
当期経常外増減額	△ 18	△ 13	△ 5	0	0	0
他会計振替前当期一般正味財産増減額	△ 11,055,412	13,808,138	△ 5	△ 2,239,769	△ 22,623,776	0
税引前当期一般正味財産増減額	△ 11,055,412	13,808,138	△ 5	△ 2,239,769	△ 22,623,776	0
法人税・住民税及び事業税	190,000	190,000	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 11,245,412	13,618,138	△ 5	△ 2,239,769	△ 22,623,776	0
一般正味財産期首残高	611,461,787	595,788,451	77,156,271	14,979,050	△ 76,461,985	0
一般正味財産期末残高	600,216,375	609,406,589	77,156,266	12,739,281	△ 99,085,761	0
II 指定正味財産増減の部						
受取補助金等	6,091,097	1,038,872	0	0	0	5,052,225
受取助成金	6,091,097	1,038,872	0	0	0	5,052,225
助成金	6,091,097	1,038,872	0	0	0	5,052,225
受取寄付金	194,682,008	0	116,199,182	890,000	77,592,826	0
指定寄付金	194,682,008	0	116,199,182	890,000	77,592,826	0
三重ファミリールーム指定寄付金	890,000	0	0	890,000	0	0
施設運営指定寄付金	116,199,182	0	116,199,182	0	0	0
奨学金指定寄付金	77,592,826	0	0	0	77,592,826	0
特定資産評価損益	△ 8,509,810	△ 8,509,810	0	0	0	0
一般正味財産への振替額	△ 202,575,429	△ 1,038,872	△ 118,504,723	△ 890,000	△ 77,592,826	△ 4,549,008
指定寄付金	△ 196,987,549	0	△ 118,504,723	△ 890,000	△ 77,592,826	0
受取助成金等	△ 5,587,880	△ 1,038,872	0	0	0	△ 4,549,008
当期指定正味財産増減額	6,707,486	8,509,810	△ 2,305,541	0	0	503,217
指定正味財産期首残高	2,048,597,033	106,257,340	1,711,701,596	18,548,842	212,089,255	0
指定正味財産期末残高	2,055,304,519	114,767,150	1,709,396,055	18,548,842	212,089,255	503,217
III 正味財産期末残高	2,655,520,894	724,173,739	1,786,552,321	31,288,123	113,003,494	503,217



2020年度（2020年4月1日～2021年3月31日）の事業概況

2020年度の事業概況



1 療養援助事業

療養援助事業は、患児が等しく医療が受けられることを願い、療養に伴う経済的負担が軽減されることを目的として、創設当時から今日まで継続している事業です。創設当時、高額な小児がんの治療費のほとんどは自己負担でしたが、現在は一部を除き公費負担となっています。しかし、治療期間が長期にわたること、保護者の付添いによる二重生活やきょうだいの保育などさまざまな負担が生じている状況に変わりはありません。当事業は、経済的な援助を主軸にしつつ、現在では、闘病中のご家族が当会や病院のソーシャルワーカー、さまざまな社会制度などの資源とつながるための入り口としての役割も果たしています。当事業の対象者、対象事項等は以下の通りです。

対象者 18歳未満で小児がんを発症し、申請時20歳未満の抗腫瘍治療中の患児の家族（一疾病で一回限りの援助）で、以下の条件に該当する場合

- 1) 給与所得者：前年の課税所得（源泉徴収票の「給与所得控除後の金額」から、「所得控除後の金額」を引いた額が400万円以下の場合
- 2) 自営業者：前年の確定申告書Bの「課税される所得金額（26）」（専従者がいる場合は「課税される所得金額（26）」に「専従者給与（控除）額の合計額（50）」及び「青色申告特別控除額（51）」を加算した金額）が400万円以下の場合

援助対象事項 1) 抗腫瘍治療中で入院療養に必要な対応として①～③のいずれかに該当する場合

- ①以下の治療を要する場合
移植の実施/難治性（転移もしくは再発がある又は有効な治療法がない）のため治療を要する場合/特殊治療が必要
- ②治療上のやむを得ない理由から治療施設と自宅が片道150Km以上離れている遠隔地で治療を要した場合
- ③未就学児のきょうだいがいる場合

2) 抗腫瘍治療中で入院・外来を問わず課税所得100万円（生計を一にする親族に所得がある場合は合算）以下の世帯（生活保護受給世帯を含む）

援助対象期間 申請書受理日から遡って3ヶ月間

援助の決定 療養援助委員会の審査会（年5回開催）にて、援助内容・金額を決定する。

■本年度決定実績

2020年度	
決定実績	187件
援助決定総額 (1件当たり平均)	¥16,865,993円 (90,192円/件)

本事業は、大原小児がん基金、日本労働組合総連合会「愛のカンパ」、株式会社吉半からの寄付をいただきました。

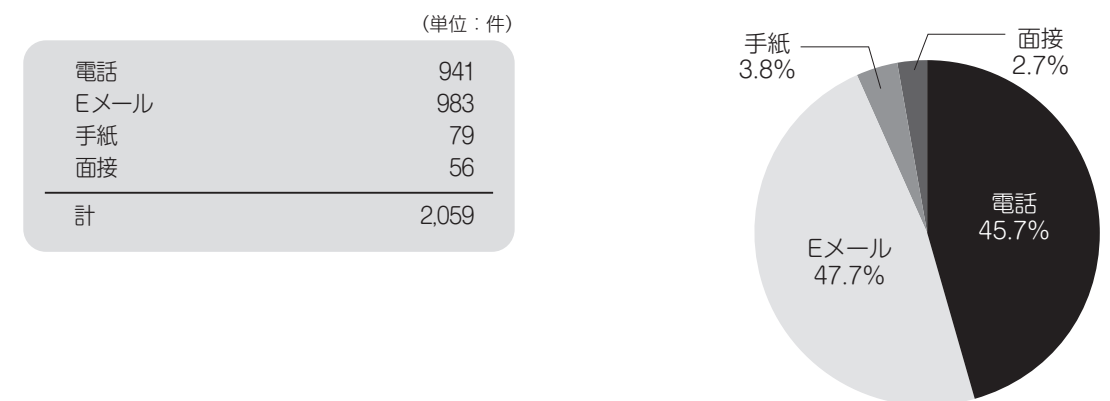
2 相談事業及び関連事業

(1) 小児がん相談事業

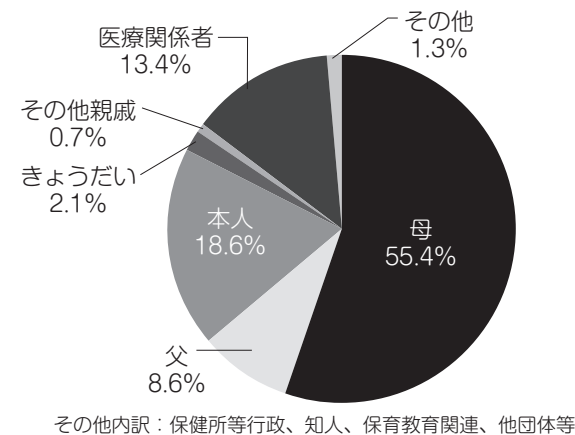
小児がん患児・家族は、数ヵ月から年単位の長期にわたる入院生活を強いられることが多く、それまでの家庭生活や社会生活は一変します。加えて、告知をどうするか、きょうだいのケアをどうするか、療養にともなう経済的負担にどう対処するか、学校をどうするかなど、家族は多くの問題に直面することとなります。小児がんの強力な治療は子どもの心身への負担も大きく、治療が終了した後も長期的な影響として身体的・精神的不調が残ることも稀ではありません。

このように多くの不安や悩みを抱える患児・家族に対して、治療中はもちろん、治療を終えた後も、また子どもが亡くなった後も、継続的なサポートが必要とされています。当会では、1973年に専任のソーシャルワーカーによる相談事業を開始し、以来45年以上相談支援を行っています。2020年度は、東京・大阪両事務所に常駐するソーシャルワーカーが計5名体制で相談に応じました。新型コロナウイルスの影響で、4月7日に発令された緊急事態宣言をうけ5月末まで事務局は原則、在宅勤務体制となり、電話相談は火曜・木曜の11時～15時の時間帯のみでの対応を余儀なくされました。以降、再び事務所の所在地が緊急事態宣言下となっても通常の相談体制を続けておりますが、面接でのご相談は難しく、電話やメールでの相談件数が多く寄せられました。相談内容としては、コロナ禍での療養生活や経済的な不安、また亡くされたご家族のグリーフを含めた療養生活についてのご相談がみられました。治療後の晩期合併症、長期フォローアップ、自立や就労についてのご相談もかわらずありました。（詳細は下記をご参照ください）。

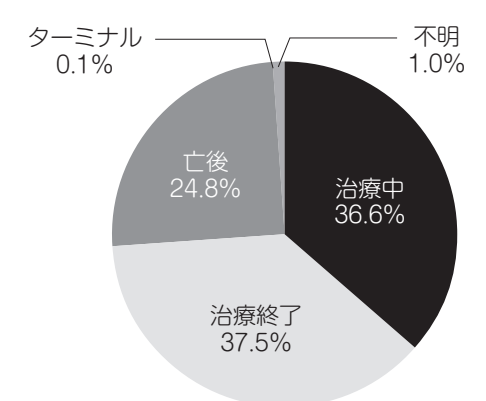
1. 相談方法



2. 相談者属性

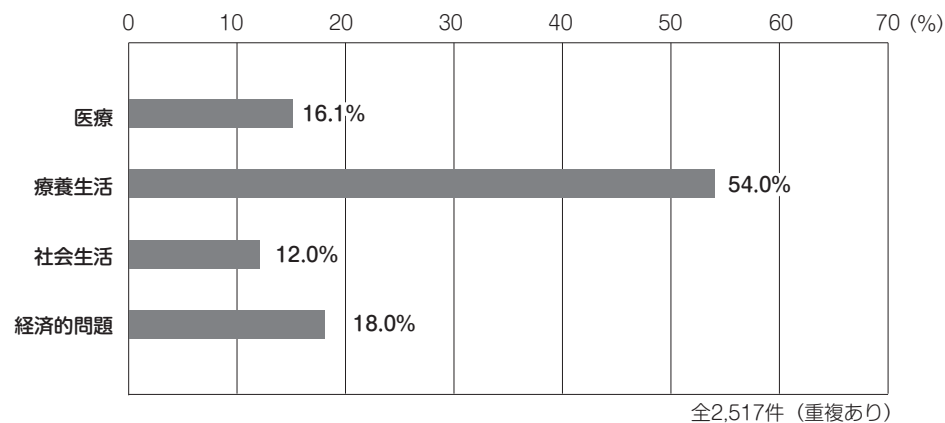


3. 相談時期





4. 相談内容



※上記の各集計分類に含まれる内容は、以下の通りです。

医療：心理社会的、治療、晩期合併症、医療者との関係、セカンドオピニオン等

療養生活：心理社会的、グリーフ、近況、親の会・経験者の会について、家族・きょうだいについて、宿泊等

社会生活：心理社会的、自立、教育、就労、保育等

経済的問題：療養援助事業、社会制度、心理社会的、保険等

(2) 小児がん こどもでんわ相談室

2015年8月より、「小児がん こどもでんわ相談室」（フリーダイヤル：0120－307－164）を開設しました。本年度からは平日10時から17時に時間帯を変更し、小児がんについての悩みや不安、疑問などに、ソーシャルワーカーがお応えしています。「小児がん こどもでんわ相談室」の周知のために、㈱スタイリングライフホールディングスと当会が受賞した第3回（2017年度）「企業ボランティア・アワード」（東京都社会福祉協議会東京ボランティア・市民活動センター主催）の奨励金によって作成したチラシやカードを小児がん拠点病院、小児がん診療病院、保健所等に配置していただいています。

(3) 相談会の開催

患児・家族が個別に専門医に相談できる機会として、下記の個別相談会を開催しました。

■個別相談会

年月日	内 容	相談医	会 場
2020年9月15日	小児がん全般（グリーフなど）	細谷 亮太 聖路加国際病院 小児科/当会嘱託医	東京（本部）
2020年12月8日	小児がん全般（患児・きょうだいの心の悩みなど）	小澤 美和 聖路加国際病院 小児科	東京（本部）
2021年3月17日	小児科	前田 美穂 日本医科大学付属病院 小児科	東京（本部）

■Web講演会

本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により集会型の活動に制限があったため、小児がん患児・経験者、ご家族の関心が高い課題をテーマに、以下のWeb講演会を計画・開催いたしました。これまで遠方で参加できなかった講演会に、自宅から参加できる利便性や貴重な講演内容から小児がん患児・家族のみならずご参加いただいた医療従事者、行政の方々等から好評を得ました。また、参加できなかった方や見直しができるように「のぞみ」にて講演録を掲載いたしました。尚、本Web講演会は、公益財団法人お金をまわそう基金の助成を一部活用し、実施いたしました。

- 2020年9月13日（日）10：30～11：30
「小児がん経験者と疲れやすさ～晩期内分泌合併症を中心として～」
伊勢原協同病院小児科 石黒 寛之先生
参加申込者数：236名
- 2020年10月18日（日）10：30～11：30
「小児がん患児・経験者のアピアランスケア～ちょっと心が軽くなる外見ケアのお話～」
国立がん研究センター中央病院アピアランス支援センター長 野澤 桂子先生
参加申込者数：275名
- 2020年12月5日（土）10：30～11：30
「小児がんによる高次脳機能障害との付き合い方」
神奈川リハビリテーション病院小児科 吉橋 学先生
参加申込者数：255名

(4) 子どもを亡くした家族の会

①子どもを亡くした家族の交流会

子どもを亡くした家族の交流やわかちあいの場の提供を目的として、ペアレンツハウス亀戸（東京）、ペアレンツハウス大阪にて交流会を年5回開催しました。会は、母親の会、父親の会、家族の会、祖父母の会、ひとりっ子を亡くされた親の会、闘病期間の短かった家族、15歳～19歳のお子さまを亡くされたご家族というテーマを設け、各回とも、当会ソーシャルワーカー司会のもと、参加者が体験や近況などを話しあい交流を深めました。2020年度は新型コロナウイルスの緊急事態宣言時及び高警戒レベル時は交流会を中止し、開催時は感染症対策を講じた会場設営をおこない、実施いたしました。

②短期集中サポートグループ

子どもを亡くされたことに関する様々な感情の表出や共感の機会の提供を目的として、子どもを亡くされて1年未満の母親を対象にサポートグループを開催しています。

2020年度は、2020年11月4日～12月1日の期間にペアレンツハウス亀戸（東京）にて開催し、3名が参加しました。例年は毎週1回、計6回集まっていますが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催方法を変更し、グループの開催前に参加者と個別の事前面接を行ったうえで、ソーシャルワーカー同席のもと、2週に1回、原則90分の集まりを計3回持ち、各回とも異なるテーマのもとに話し合いを行いました。グループ終了後には再び参加者と個別に事後面接を行いました。



(5) 小児がん経験者への支援活動

①小児がん経験者の会リーダーの集い

小児がん経験者の会のリーダー及びこれから会を立ち上げようとしている小児がん経験者たちが、会を運営していく上での悩みや課題を一緒に考え共有していくことを目的とし、2003年より「小児がん経験者の会リーダーの集い」を開催しています。

2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で開催を見合わせました。

②活動費の支援

小児がん経験者の会に対して活動費の支援を行っています。2020年度は2団体に計4万円の活動費の支援を行いました。

③Fellow Tomorrow (フェロー・トゥモロー) /WISHへの支援

1993年に発足した小児がん経験者の会「Fellow Tomorrow (フェロー・トゥモロー)」の運営支援を行いました。また、2000年に発足した東海地域の小児がん経験者の会「WISH」についても、ソーシャルワーカーが運営支援を行っています。本年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、交流会などの開催は実施されませんでした。

④スマートムンストーンキャンプ

スマートムンストーンキャンプ(SMS)は告知をされて小児がんと向き合ってきた子どもたちを対象にし、1998年に3人の医師、看護師などからなる運営スタッフによって始められたキャンプです。「病気について説明を受けている子どもたちが多数派になるまで見守る」という初期の目的は達成されましたが、これからもこのキャンプで築かれた子どもたちのつながりを深くするため、そして新しい仲間を迎えるために、これまでのスマートムンストーンキャンプを礎として2011年より小児がん経験者が主体となって運営するキャンプを開催することになり、2012年度からは公益財団法人がんの子どもを守る会の事業として、ボランティアを中心とした実行運営グループが企画運営をしながら、新たなスタートを切っています。

2020年度は23回目のキャンプを行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で8月10日にオンラインイベントを開催しました。小学1年生から社会人までの小児がん経験者13名、一般ボランティア(医師・看護師)3名、ボランティアリーダー(小児がん経験者)6名を含むスタッフ12名の計28名が参加しました。なお、本事業は毎日新聞東京社会事業団のご寄付によって運営されています。

協賛：公益財団法人毎日新聞東京社会事業団

(6) 親の会支援

①親の会連絡会

小児がん親の会が、会の運営や活動を共有しあうことを目的として年1回の集まりを持ち情報交換等を図る場として、1997年より「全国小児がん親の会連絡会」を開催しています。

2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で開催を見合わせました。

②活動費の支援

全国の病院内や疾病別に発足している小児がん親の会は、子どもが小児がんにかかった親たちが身近に相談できる場所として大変重要です。各会に対して、運営や設立に関する相談に応じるほか、小児がん親の会に

対して活動費の支援を行っています。本年度は新型コロナウイルス感染症の影響で活動の制限を余儀なくされていることを鑑み例年の支援金とは別に特別支援金を設け、24団体に計795,038円の活動費の支援を行いました。

(7) きょうだいの支援

①富士山にアタック!! 2020

小児がんの子どものかょうだい向けのイベントは少なく、出会いや交流の場が少ないのが現状です。当会では、2001年より毎日新聞社の支援を受け、小児がん患児のかょうだいのための富士山キャンプを行っています。

20回目となる2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、富士山登山ルートが閉鎖されたこともあり、対面でのキャンプ実施ではなくオンラインで、8月15日に小児がんの子どものかょうだいたち11名とスタッフ6名で開催致しました。事前に各々がコラージュした画用紙を画面に映し、まずは1人ずつ自己紹介をし、その後はZoomのブレイクアウト機能を活用し、工作・クイズとお話会の2グループに分かれてのアクティビティを行いました。工作では、台紙に絵を描いたりシールを貼ったりしてオリジナルのタンブラーを作り、お話会ではこのイベントへの想いや近況などを語り合いました。最後に皆で作ったタンブラーを手にオンライン上で記念撮影をし、今年は直接会うことはできませんでしたが、きょうだい同士が思いを分かち合う機会となりました。

協賛：あいおいニッセイ同和損害保険株式会社、公益財団法人清心内海塾、公益財団法人毎日新聞東京社会事業団

協力(物品提供)：株式会社ガイア、スタイリングライフグループ

②きょうだいの交流会 てんとうむし

当会では、きょうだい支援の一環として、富士山にアタック!!参加者の「富士山だけじゃなくもう少し会いたいね」「旅行じゃなくて気軽に参加できたらいいな」という声から、2011年より小児がんのかょうだいの交流会と親睦会を開催しています。開催にあたっては、小児がんの子どものかょうだいたちにより「てんとうむし」と名付けられました。これはテントウムシ(天道虫)が日本では太陽に向かって飛ぶといわれていること、また、外国では『子どもの守り神』といわれていることから、「子どもたちが守られ、その子の太陽に向かい自由に飛ぶ」という意味を込めています。同じ小児がんの子どものかょうだい同士が、こころにとめてる想いを語り合い、分かち合い、同じ立場の人がいるという繋がりや安心感をもてる場として、3月28日に交流会を開催しました。また、8月30日に開催を予定していた親睦会は、新型コロナウイルス感染拡大予防対策のため中止となりました。

(8) 休眠預金等活用事業

一般財団法人日本民間公益活動連携機構(JANPIA)の助成による「小児がん経験者の長期フォローアップ受診促進のための啓発活動」事業(2020年度~2023年度)に着手してきました。本事業は、小児がん経験者が、自分自身の治療歴に基づいたフォローアップレベルを知り、適切な健康管理を行えるように相談・情報提供を行うほか、i)自身の治療歴の入手が困難になっている小児がん経験者、ii)治療歴に基づいた健康管理の説明がされておらず相談できる病院との関係が絶たれてしまっている小児がん経験者に対し、適切な健康管理のための説明を受けられるよう病院につなぐ支援をするとともに、その状況になった原因を把握し、今後の長期フォローアップ対策に反映させていくことを目的としています。本年度は、次年度以降の具体的な実施に向けて計画の実効性の検討・修正を行いました。尚、本事業のアドバイザーとして以下の委員に委嘱を行いました。



氏名（敬称略：順不同）	所 属
松本 公一	国立成育医療研究センター 小児がんセンター（小児がん中央機関）
力石 健	東北大学病院 小児科（小児がん拠点病院）
宮地 充	京都府立医科大学付属病院 小児科（小児がん拠点病院）
長谷川 大輔	聖路加国際病院 小児科（一般総合病院）
石田 也寸志	JCCG長期フォローアップ委員会 委員長／愛媛県立中央病院小児医療センター
大園 秀一	日本小児血液・がん学会長期フォローアップ委員／久留米大学病院 小児科
前田 美穂	日本医科大学病院 小児科／日本歯科大学
舩本 大輔	WISH代表／当会評議員（小児がん経験者）
菱ヶ江 恵子	Fellow Tomorrow/QOL+（小児がん経験者）

3 治療研究事業

（1）治療研究助成

子どもたちを小児がんのさまざまな脅威から守るため、その予防、早期の適切な診断、治療成績の一層の向上と後遺症のない治癒、トータルサポートによるよりよい療養生活などの実現に寄与する調査研究の促進を目的とし、小児がん経験者に関する研究、小児がんに関するトータルケアの研究、小児がんに関する基礎系・臨床系の研究の3課題で募集いたしました。審査の結果、28件（助成総額7,122,000円）を助成いたしました。助成金の一部については清水建設株式会社からのご寄付も活用させていただきました。

〈2020年度 治療研究助成一覧〉

（助成期間：2020年10月1日～2021年9月30日） * 所属は2020年9月時点

氏名（敬称略：順不同）	所 属	研究名称
荒木 麗博	金沢大学医薬保健学総合研究科 地域未来医療整形外科科学講座	破骨細胞の分化を抑制する骨肉腫細胞由来エクソソーム内の分子の特定と新規治療の開発
植田 高弘	日本医科大学付属病院 小児科	小児がん患者の腸内細菌叢の特徴と治療による変化の解析
梅田 雄嗣	京都大学大学院医学研究科 発達小児科学	難治性小児悪性固形腫瘍に対するテモゾロミド併用化学療法の治療効果予測因子としてのMGMT免疫染色の有用性の検討
大木 健太郎	国立成育医療研究センター研究所 小児血液・腫瘍研究部	小児急性白血病におけるFISH法による融合遺伝子診断法の開発
大杉 タ子	兵庫医科大学病院 血液内科	思春期若年成人世代の血液腫瘍患者への情報提供の在り方と支援に関する研究
大曾根 眞也	京都府立医科大学 小児科	急性リンパ性白血病の治療薬デキサメタゾンによって生じる精神系有害事象に関する多施設共同前向き観察研究

氏名（敬称略：順不同）	所 属	研究名称
小川 恵子	金沢大学附属病院 漢方医学科	小児がん経験者の心身包括的評価とフォローアップケアへの応用
川岸 裕幸	信州大学先端領域融合研究群バイオメディカル研究所 バイオテクノロジー部門	抗腫瘍薬治療による晩期心機能障害の発生機序の解明
川久保 尚徳	国立大学法人九州大学 小児外科	繊維形成性小円形細胞性腫瘍に対するNK細胞を用いた新規養子免疫治療の開発
池澤 聡	国立精神・神経医療研究センター病院 第一精神診療部	小児がん経験者への認知機能トレーニングの導入
木下 英幸	千葉県がんセンター 整形外科	骨肉腫の腫瘍進展におけるレドックス制御の分子機序解明および新規治療薬の探索
清谷 知賀子	国立成育医療研究センター 小児がんセンター	東京小児がん研究グループ（TCCSG）コホート研究
黒田 梨絵	金沢大学附属病院 小児科	高リスク群神経芽腫に対する大量131-I MIBG治療の確立に向けて
佐野 秀樹	福島県立医科大学附属病院 小児腫瘍内科	限局性ユーイング肉腫ファミリー腫瘍に対するG-CSF併用治療期間短縮VDC-IE療法を用いた集学的治療の第Ⅱ相臨床試験 JESS14
清水 秀年	愛知県がんセンター 放射線治療部	小児がんを対象としたトモセラピーにおける全身照射の寝台移動速度の健全性の検証
スタッフ 由紀子	金沢大学附属病院 薬剤部	骨肉腫患者における大量メトトレキサート療法の母集団PKPDモデルの開発
田中 祐吉	神奈川県立こども医療センター 臨床研究所	小児腫瘍のグループスタディに有用な病理組織分類アトラスの適時リニューアルおよび小児腫瘍病理診断の教育研修活動
田中 美幸	信州大学医学部附属病院 小児科	ランゲルハンス細胞組織球症に対するCAR-T細胞の開発
田畑 阿美	京都大学大学院 医学研究科人間健康科学系専攻	小児脳腫瘍患者の精神・認知機能、協調運動および適応行動に関する前向き観察研究
土屋 邦彦	京都府立医科大学 小児科	小児がん患者の長期フォローアップに基づく薬剤性心毒性のリスク因子の解明
服部 浩佳	国立病院機構名古屋医療センター 遺伝診療科／小児科	RB1遺伝学的検査による網膜芽細胞腫のリスク層別化と遺伝診療への応用
林原 健治	東北大学大学院医学系研究科 小児看護学分野 博士後期課程	AYA世代の小児がん経験者のキャリアレジネスを高める支援方略の検討
原（野上）愛	就実大学 薬学部薬効解析学分野	L-アスパラギナーゼ特異的抗体産生に対する併用薬の影響
平崎 能郎	千葉大学大学院医学研究院 和漢診療学講座	天然化合物による急性骨髄性白血病のエピジェネティックスに対する薬理作用と抗がん機序の解明
細谷 要介	聖路加国際病院 小児科	一般総合病院の機能を活かした小児がん経験者の人間ドックシステムによる晩期合併症とQOLの生涯コホート調査と自立的な健康管理能力の育成～他機関との連携
松井 基浩	東京都立小児総合医療センター 血液・腫瘍科	小児がん患者における輸血、腫瘍崩壊症候群による重篤な合併症の実態調査とその救命率向上のための前向き研究
宮地 充	京都府立医科大学大学院 医学研究科小児科学	病気療養中の高校生を対象とした同時双方向の遠隔教育の普及のための研究
米田 光宏	国立成育医療研究センター 小児がんセンター腫瘍外科診療部	超希少小児がんに関する後方視的研究



4 総合支援施設運営事業

(1) アフラックペアレンツハウスの運営事業

アフラックペアレンツハウスは、亀戸（東京都江東区亀戸、2001年2月開設）、浅草橋（東京都台東区浅草橋、2004年12月開設）、大阪（大阪府大阪市中央区、2010年1月開設）の3か所あります。小児がんなど難病の患児・家族に寄り添う、日本で最初の総合支援センターとして運営を開始しました。これまで宿泊部門では、3棟で延べ145,454名の方にご利用いただいております。

2020年度は新型コロナウイルスにより大きな影響を受けた年度となりました。まず4月～5月の緊急事態宣言の時期には、3棟とも一時休館を余儀なくされました。また患児さんの病院での受診形態が変わった事の影響により、宿泊利用者は大きく減少致しました。これを受けて東京における宿泊業務については浅草橋に集約することで、効率的な運用に努めました。

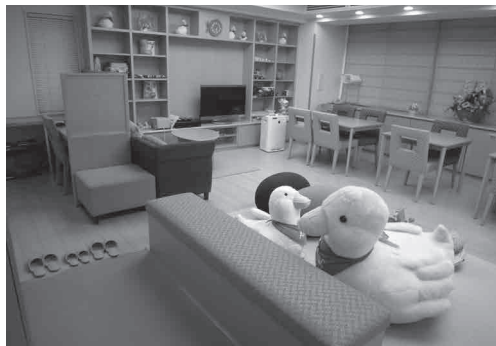
一方、このような情勢下でもハウスを必要とされるご家族からの強いニーズを感じた1年でもありました。なお、運営に関する費用については、アフラック並びにアフラックの社員及び全国の代理店（アフラック全国アソシエイツ会）の皆様からのご支援により賄われ、また、その他にも多くの企業・個人の方々からのご寄贈やボランティア、医療関係者によるご支援もいただきながら運営を継続しています。更に2020年度には、アフラック創始者のお一人であるS.エイモス氏のご夫人ジーンエイモス氏への追悼寄付を頂き、これを原資に患者とそのご家族のニーズを取り込み、一部改修を行いました。

■宿泊利用状況

延べ宿泊利用家族数（2020年4月1日～2021年3月31日）※（）は前年度
 亀戸（10室） / 1家族（202家族）
 浅草橋（14室） / 106家族（400家族）
 大阪（12室） / 153家族（341家族）
 計 260家族（943家族）



▲ ハウス



▲ 大阪



▲ 亀戸

(2) その他の宿泊施設

①あかつきハウス

あかつきハウスは1995年にオープンしました。遠隔地から東京都中央区内の病院で治療をされる患児とその家族のための宿泊施設として、区立住宅「築地あかつき住宅」の一室をお借りして管理・運営しています。こちらも新型コロナの影響で2020年4月1日から2021年3月31日までの間、延べ2家族の利用に留まりました。

②三重ファミリールーム

三重ファミリールームは、三重大学医学部附属病院、および近郊の病院に入院中あるいは小児科外来等に通院中の小児慢性疾患児とその家族のための宿泊施設で、2階建ての建物に和室4室があります。三重ファミリールーム運営委員会（三重大学附属病院小児科内）と当会で管理・運営しています。利用料は1泊1,000円、昼間の利用は300円です。2020年4月1日より2021年3月31日までの間、延べ9家族の利用がありました。

5 小児がん・難病対策

当会では設立以来、新薬の承認、医療費の公費負担の実現など小児がん患児・家族が抱える制度上の問題を訴え、発信し続けてきました。国や地方自治体が運営する様々な協議会に当会会員が患者家族の代表として参画し、政策への意見や提言を活発に述べることができました。

■2020年度要望書提出一覧（小児慢性疾患児の親の会、難病患者団体等との連名にて提出）

- ・2021年2月24日 小児がん対策の更なる充足についての小児がん患者・家族からの要望書（厚生労働省）
- ・2021年2月24日 小児・AYA世代がん患者が切れ目なく教育を受けることができる教育環境の充足を求める要望書（文部科学省）

■当会が参画している委員会及び各地域のがん対策協議会など

全国	小児がん中央機関アドバイザーボード
北海道	高等学校段階における入院生徒に対する教育保障体制検討会議
宮城	慢性疾患児童等地域支援協議会
福島	がん対策推進協議会
	小児慢性疾患対策協議会
関東	がん対策推進協議会（栃木県）
	がん対策推進協議会、他（東京都）
	小児がん診療連携協議会（東京都）
新潟	慢性疾患児童等地域支援協議会（県、新潟市）
	がん対策推進協議会
富山	がん対策推進協議会
福井	がん対策協議会
	がん治療相談支援部会
	県難病患者団体連絡協議会



静岡	慢性疾病児童等地域支援協議会（県、静岡市）
関西	小児・AYA世代のがん対策部会（大阪府）
岡山	がん対策推進協議会
広島	難病対策推進協議会
愛媛	がん相談支援推進協議会
	慢性疾病児童等地域支援協議会
高知	がん対策推進協議会
九州北	がん対策推進協議会（福岡県）
九州西	がん教育普及推進協議会（長崎県）
沖縄	がん対策推進協議会
	がん診療連携協議会 小児・AYA部会

■アンケート調査

- 本年度は下記の通り、2つのアンケート調査を実施し、要望活動をはじめとする当会の事業に反映しました。
- ワクチン再接種に関するアンケート
調査期間：2020年3月
調査対象：各都道府県予防接種担当課
回答数：26通
報告：「のぞみ」202号
 - 新型コロナウイルス感染症による小児がん患者・家族の治療・生活への影響について
調査期間：2020年8月～10月
調査対象：小児がん患者・家族、及び全国小児がん治療施設
回答数：小児がん患者・家族 154件
全国小児がん治療施設 84件
報告：「のぞみ」204号及び当会ホームページに掲載

6 支部活動

当会には全国に21の支部があります（2021年3月31日現在）。支部の幹事は、各地域の会員ボランティアにより組織されており、医療関係者や支援者の方々のご協力を得ながら、各地域における交流会や相談会、啓発活動等を実施しています。本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により予定していた活動の多くが延期や中止の判断をせざるを得ない一年となりましたが、地域のご協力をいただきながら、オンライン等によるイベントを実施しました。

(1) 講演会、交流会、相談会、総会等

開催月	支部	内容
8月	九州北	レモネードスタンド in ふくおか YouTube 動画配信
11月	静岡	静岡県東部健康福祉センター共催 「小児慢性特定疾病医療受給者が知っておきたい制度やサービスについて」 YouTube 動画配信
1月	九州北	造血幹細胞移植推進拠点病院（九州ブロック）九州大学病院共催 小児造血幹細胞植セミナー九州2021 市民公開講座「小児がんの晩期合併症と移行期医療」 Web 開催
2月	関西	近畿小児血液・がん研究会公開シンポジウム 「緩和医療－入院生活のQOL向上を目指して－」Web 開催
3月	九州北	第50回講演・交流会（久留米） 「小児がん経験者の生涯フォローアップ」「社会とつながること」Web 開催
	東海	講演会～子どもたちの学びを保障する支援～ 「闘病中の教育支援について」Web 開催

(2) 支部連絡会

支部活動の活性化、および質の向上を目的に全国21の支部幹事を対象に年2回開催しております。本年度は6月7日と10月5日の2回開催しましたが、いずれも新型コロナウイルスの感染状況を考慮し、Webでの開催としました。10月の開催ではグループ別のディスカッションを行い、コロナ禍において活動の現状と、今後の活動についての意見交換が行われました。

7 広報・啓発・募金活動等

第25回がんの子どもを守る会公開シンポジウム

2020年11月20日（金）～11月22日（金）にWeb開催にて第62回日本小児血液・がん学会学術集会（菊田敦会長／福島県立医科大学 小児腫瘍内科）、第18回日本小児がん看護学会学術集会（古橋知子会長／福島県立医科大学 看護学部）第25回公益財団法人がんの子どもを守る会公開シンポジウムがオンラインにて開催されました。

後援：厚生労働省、福島県、福島県教育委員会、公益社団法人 日本小児科学会、一般社団法人 日本小児外科学会、一般社団法人 日本造血細胞移植学会、一般社団法人 日本小児看護学会



■三団体合同公開シンポジウム（市民公開講座）

「造血細胞移植後の生活」

- ・日時：11月22日（日）12：00～14：00 オンラインライブ配信
（12月2日～12月18日までオンデマンド配信）
- ・座長：菊田 敦（第62回日本小児血液・がん学会学術集会会長 / 福島県立医科大学小児腫瘍内科）
上別府圭子（日本小児がん看護学会理事長 / 東京大学大学院医学系研究科家族看護学分野）
- ・シンポジスト
井上 雅美（大阪母子医療センター 血液・腫瘍科 / 医師）
安斎 紀（福島県立医科大学附属病院 看護師・造血細胞移植コーディネーター）
山崎奈美恵（札幌北楡病院 社会福祉士・造血細胞移植コーディネーター）
伊藤 彩加（AYA がん移植経験者）
菊地 英子（小児がん移植経験者の親）
- ・オンラインライブ事前申込者 140 名

※例年学会の会場をお借りして開催しております、「小児がんの子どもたちの絵画展」、「チャリティウォーク」、「関連団体紹介コーナー」など、当会のその他の催しは、2020年度はオンライン開催のため中止となりました。

ブース出展

小児がんの患児・家族への支援を目的にした各種チャリティーイベントや小児がん関連の会合の会場にて、小児がんの現状や当会の活動について周知し、その他募金活動を実施しました。

東京マラソン2021チャリティ寄付先団体としての活動展

2020年度より東京マラソン2021チャリティ寄付先団体として選定され、当会の広報媒体等を利用して小児がんの啓発と当該チャリティ事業である療養援助事業に対する寄付を呼び掛けた。しかし、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により大会自体は中止となり、小児がんの啓発、東京マラソン2021チャリティを通じた寄付活動及び東京マラソン2021チャリティの広報活動協力を行った。

ゴールドリボンによる啓発活動

ゴールドリボンとは、小児がんに対する理解や支援をよびかけるときに使われる世界共通のシンボルマークです。ゴールドリボンをあしらったアクセサリーを作成し、小児がんの啓発を兼ね、募金をされた方へ贈呈しました。

本年度も多くの企業や有志が集まった方々に様々な工夫を施した広報・募金活動を行っていただきました。

※ 500円以上の募金につき1つ、ゴールドリボンのバッジやストラップをお渡しして小児がんの理解や支援を広めています。本年度は、ピンバッジ2,355個、ストラップ575個、スワロフスキー付ピンバッジ50個のご支援をいただきました。（ゴールドリボンの製作費は清水建設株式会社に、バッジの組み立てにはモルガンスタンレーのご支援とご協力をいただきました。）



ゴールドリボンイラスト



ピンバッジタイプ



ストラップタイプ

チャリティバッグの頒布

小児がん支援のシンボルマークであるゴールドリボンのイラストをプリントしたチャリティーバッグの頒布を数量限定で開始いたしました。1000円以上の募金をいただいた方に頒布しました。



常設募金箱の設置

店舗のレジ横などに設置できるオリジナル募金箱を作成し、支援者の方々のご協力のもと、広く募金活動を展開することができました。全国で54か所に設置のご協力をいただいております。



▲ 常設募金箱



▲ 支援自動販売機

支援自動販売機設置

売上の一部が当会に寄付される支援自動販売機があります。全国35か所に設置していただいております。

機関紙「のぞみ」の発行

当会創立時より、小児がんに関する情報提供及び当会活動の紹介・報告を目的に「のぞみ」を発行しています。本年は、第201号（2020年5月1日発行）、第202号（2020年7月27日発行）、第203号（2020年9月28日発行）、第204号（2021年2月1日発行）の4号を発行いたしました。第201号及び第204号には、小児がん患者ご家族が抱える新型コロナウイルス感染症に対する不安の軽減できればと、「新型コロナウイルス感染症対策—小児がん患者・家族ができること・知っておきたいこと」として時機に合う記事の掲載を心掛けました。

号	発行月	内 容
第201号	2020年5月1日	・新型コロナウイルス感染症予防対策に伴う活動自粛についてのお知らせ ・2020年度年次大会のご案内 ・新型コロナウイルス感染症対策—小児がん患者・家族ができること・知っておきたいこと ・2020年度事業計画、収支予算 ・2020年度年間活動スケジュール ・治療研究事業紹介 ・国際小児がんデー、啓発キャンペーン報告



号	発行月	内 容
第202号	2020年7月27日	2020年度年次大会開催報告 - 第33回支部連絡会報告 - 治療研究事業紹介 - アフラックペアレンツハウス大阪10周年 - 接種済みワクチン再接種費用助成都道府県調査報告 - 小児がん対策への取り組み
第203号	2020年9月28日	2020年度年次大会講演会報告/小児がんの移行期医療 - 富士山にアタック!!2020、スマートムンストン2020報告 - アフラックペアレンツハウス大阪10周年
第204号	2021年2月1日	- 新型コロナウイルス感染症アンケート報告 - 新型コロナウイルス感染症対策—小児がん患者・家族ができること・知っておきたいこと その2 - 第25回公益財団法人がんの子どもを守る会公開シンポジウム報告 - Web講演会/小児がん経験者と疲れやすさ - Web講演会/小児がん患児・経験者のアピアランスケア - 第34回支部連絡会報告 - クリスマスプレゼント報告

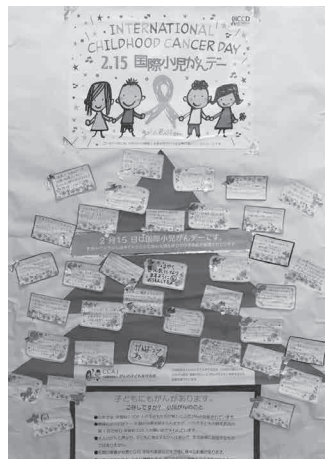
小児がんに関する冊子・資料の発行

より良い療養環境の整備に寄与することを目的として、冊子の発行を行い、患児・家族、小児がん医療に携わる医療者、教育関係者等に配布しました。

国際小児がんデーの活動

2月15日は「国際小児がんデー」です。国際小児がんデーは国際小児がんの会（CCI：Childhood Cancer International）により創設され、国際小児がん学会（SIOP：International Society of Paediatric Oncology）など世界的な主要機関のネットワークにより広がられています。当会では、1月1日～3月31日をキャンペーン期間とし、全国的に小児がんの啓発に努めました。また、小児がんの子どもたちを支援する気持ちを身近な人と分かち合いたいとの想いで、メッセージカード付きのオリジナルチョコレートを用意して、多くの方にお届けしました。

後援：厚生労働省



■啓発活動など

本年度は全国的な新型コロナウイルス感染症の影響により活動に制限がある中、感染症対策を十分に講じながら商業施設や病院、大学、行政機関などにご協力をいただき啓発チラシ設置や、ポスターの掲示、ゴールドリボンツリーなどを飾りました。

〈主な協力機関〉（順不同・敬称略）

行政・公共機関等

宮城県庁、栃木県庁、文京区（東京都）、岡山市立中央図書館、福井県庁、福岡県庁、福岡市役所、嘉麻市役所、直方市役所、飯塚市役所、小竹町役場、宗像市民図書館、嘉穂図書館、山田図書館、桂川町役場、桂川町立図書館、桂川総合福祉センター、ウェルとばた、メイトム宗像、宗像・遠賀保健福祉環境事務所、イイツカコミュニティセンター、福津市立図書館、添田町役場、浦添市役所、沖縄市役所、飯塚市役所筑穂支所 他

病院等医療機関

北海道大学病院小児科病棟、市立釧路病院、福島県立医科大学附属病院、埼玉県立小児医療センター、筑波大学病院総合がん診療センター、浜松医科大学医学部附属病院、静岡こども病院、名古屋市立大学、山形大学病院、山梨大学医学部附属病院、舞鶴医療センター、大津赤十字病院、大阪市立総合医療センター、倉敷中央病院、愛媛大学医学部附属病院、東京医科歯科大学、東京都立小児総合医療センター、国立成育医療研究センター、京都桂病院、大阪母子センター、福井大学医学部附属病院、福井県済生会病院、福井赤十字病院、福井県立病院、本馬医院、敦賀医療センター、岡山大学病院、岡山医療センター、岡山日赤病院、済生会病院、倉敷中央病院、川崎医科大学、津山中央病院、高梁中央病院、金田病院、川崎医療センター、岡山労災病院、岡山市民病院、倉敷成人病センター、岡山県難病相談支援センター、広島大学病院、佐賀県健康づくり財団メディカルセンター、大分大学医学部附属病院、宮崎大学病院、九州がんセンター、九州大学病院、久留米大学病院、シルバーケア嘉穂、琉球大学附属病院、沖縄県立南部医療センター・こども医療センター、琉球大学、沖縄県立看護大学 他

教育機関等

仁愛女子短期大学、敦賀気比高等学校、若狭高等学校、敦賀看護大学、めぐみ保育園、恵大保育園、山野保育園、沖縄大学、沖縄女子短期大学、沖縄県立鏡が丘特別支援学校 他

企業・商業施設等

アフラック生命保険株式会社、アフラック販売代理店、明治安田生命保険相互会社、日本チャールス・リバー株式会社、武州製薬株式会社 / 武州製薬ユニオン、大阪エヴェッサ、シーザースキッチン株式会社、カフェ 縞、織田廣喜美術館、飯塚信用金庫、サンリブくりえいと宗像、道の駅しんよしとみ、イオンモール福津、なみきスクエア、一般社団法人 kukuru、みやの森カフェ、る・ふつくらん、プレスステージインターナショナル アランマーレ、pizzeriaMaruburin、ケーキ屋ミネット、ボンジュールネ、認定NPO法人 こども医療支援 わらびの会、セブン-イレブン西鉄香椎駅前店、セブン-イレブン福岡香椎駅前店、西鉄香椎駅、ヘアサロン マーブルヘア 他

イベント

LIVE EMPOWER CHILDREN2021（主催：EmpowerChildren, 朝日新聞社）

小児がん WEB 交流フェスタ 2021（主催：国立成育医療研究センター小児がんセンター）

東京 2020 オリンピック・パラリンピック応援プロジェクト 小児がんなど難病と闘う子どもたちとアスリートをつなぐ「ともに、かなえる」（主催：毎日新聞社）

* その他、全国多数の商業施設等で募金・啓発活動にご協力をいただきました。

キャンペーンの報告等、詳細はスタッフブログでもご紹介しております。
<http://blog.canpan.info/nozomi/>



8 国際活動

国際小児がんの会（CCI/Childhood Cancer International）年次総会への参加

2020年10月14日～17日にカナダのオタワにて開催予定であった国際小児がん学会（SIOP/International Society of Paediatric Oncology）と同時期に開催予定であった国際小児がんの会（CCI/Childhood Cancer International）年次総会に派遣事業として小児がんの子ども親及び小児がん経験者を対象に参加者公募を行いました。新型コロナウイルス感染症感染拡大のためCCI年次総会は中止となり派遣は実施致しませんでした。なお、SIOPはWebによる開催となりました。

国際小児がんの会（CCI/Childhood Cancer International）アジア年次総会

2021年3月21日～22日にCCI Asia Conference がインドのムンバイを主催国としてVirtual（Web）開催されました。開催に伴い、参加費助成の公募を行い、結果1名に対し参加費の助成を行いました。コロナ禍により現地での開催ができなかったものの、インターネットを通じてアジア各国からの参加がありました。

* 国際小児がんの会（CCI/Childhood Cancer International）への参加加盟国は90カ国、170団体となりました。

PHPF（Parents Helping Parents Fund）への協力

開発途上国等の国際小児がんの会（CCI/Childhood Cancer International）年次総会を支援するための基金「PHPF」に600ユーロの寄付を行いました。

9 奨学金事業（アフラック小児がん経験者・がん遺児奨学金制度）

当事業は小児がん患児に充実した学校生活を送ってほしいとの想いで設立され、2014年度より奨学金の給付を開始しました。2015年度より、がん遺児も対象に加えて奨学金を給付しました。なお、本奨学金制度の内容は下記の通りです。

※ 当事業についてはアフラック並びにアフラック社員の皆様及び全国の代理店（アフラック全国アソシエイツ会）の数多くの方々からご支援を受け運営しています。

対 象 者	18歳未満で小児がんを発症した経験者及び、がんにより主たる生計維持者を失った遺児で、経済的な理由で高校等の進学・修学が困難な方。 - 給付開始時に高等学校等に在学中の方。 - 申請時における前年度の世帯収入が当会の定める上限を超えない方。
対象となる教育機関	「高等学校」、「中等教育学校の後期課程」、「専修学校の一般課程及び高等課程」、「特別支援学校の高等部」、「高等専門学校」
給 付 金 額	- 月額25,000円（2019年度募集分より月額20,000円） - 対象となる教育機関で正規の最短修業期間。 - 奨学金の返還は原則不要。
本 年 度 実 績	小児がん経験者：助成件数 62件（高1 15件、高2 24件、高3以上 23件） が ん 遺 児：助成件数 317件（高1 70件、高2 110件、高3以上 137件） 合 計：助成件数 379件（高1 85件、高2 134件、高3以上 160件） 給 付 金 額：93,970,000円

10 ボランティアコーディネート・研修会

（1）遊びと学習のボランティア たんぽぽ

「遊びと学習のボランティア たんぽぽ」は、当会ソーシャルワーカーが福祉系大学に通う学生に呼びかけ結成されたボランティアグループであり、1992年より現在まで、東京慈恵会医科大学附属病院小児病棟にボランティアを週1回派遣し、入院患児を対象に遊びの支援活動をおこなっています。しかしながら本年度は新型コロナウイルス感染拡大予防対策のため院内ボランティアの受入が全面中止となり、「たんぽぽ」も病棟で活動することができませんでした。代わりにはありませんが、クリスマスにはボランティアメンバーがカードを作成、また「たんぽぽ」の活動に常日頃から協力いただいているスタイリングライフグループからの寄付でいただくステッカーアートキットにメッセージをつけて小児病棟へプレゼントし喜ばれました。集会でのミーティングも中止せざるをえず、同院のボランティアコーディネーターと積極的な連携を図りながら可能な範囲での活動となりました。

（2）ボランティアコーディネート

当会事業推進のために、本部事務所（東京）と大阪事務所延べ44人（内ペアレンツボランティア23名）からボランティア協力をいただきました。本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、ボランティア活動を制限せざるを得ない状況となってしまいました。また当会にてボランティアとして登録されている方には、ボランティア研修を予定しておりましたが、同じく新型コロナウイルス感染症対策の観点から中止と致しました。

11 調査研究協力

■調査研究委託

2020年度の当会への調査研究に関連する協力の依頼は5件ありすべて調査研究委員長の承認が得られ、以下の通り関係者へ協力を呼びかけました。

研究名称	協力内容
「AYA世代のがん患者活動・実態調査」 桜井なおみ（キャンサーソリューションズ株式会社）	対象者：小児がん経験者の会代表者 方 法：インターネットによるアンケート調査
「新型コロナウイルス感染症による小児がん患者・経験者及び家族の治療・生活への影響についてのアンケート調査」 公益財団法人 がんの子どもを守る会	対象者：小児がん患者・経験者及び家族、小児がん診療医療機関 方 法：インターネットによるアンケート調査、郵送によるアンケート調査
「小児がん患児の復学後における学校関連QOLとその関連要因」 上別府圭子（東京大学大学院医学系研究科健康科学看護学専攻家族看護学分野）	対象者：小児がん経験者（中学生・高校生）とその親 方 法：インターネットによるアンケート調査
「小児がん経験者の復学及び復学における課題と支援へのニーズに関する調査」 早川晶（JCCG長期フォローアップ委員会教育ワーキング）	対象者：以下に当てはまる小児がん経験者とその保護者 ①現在18歳以上で学校生活を振り返ることが出来る方 ②最初の診断が小学3年生以上高校3年生までの方 ③調査回答時に復学後6か月以上経過し学校生活を経験した方 方 法：インターネットによるアンケート調査



研究名称	協力内容
「ゲノム編集技術などを用いたヒト受精卵等の臨床利用のあり方に対する関係者の意識調査研究」 竹原健二（国立成育医療研究センター 研究所政策科学研究部）	対象者：以下に当てはまる小児がん経験者とその保護者 ①現在 18 歳以上で学校生活を振り返ることが出来る方 ②最初の診断が小学 3 年生以上高校 3 年生までの方 ③調査回答時に復学後 6 か月以上経過し学校生活を経験した方 方 法：インターネットによるアンケート調査

■研究協力

2020 年度は下記研究に携わりました。

研究名称	協力内容
厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業） 「思春期・若年成人（AYA）世代がん患者の包括的ケア提供体制の構築に関する研究」班 研究代表者 清水 千佳子 （国立研究開発法人国立国際医療研究センター 乳腺腫瘍内科）	委託研究

12 2020年度年次大会開催

2020 年 6 月 7 日に 2020 年度年次大会を「小児がんの移行期医療」をテーマに開催しました。本年度は新型コロナウイルス感染症予防対策のために、急遽、web 開催となりました。当日は、318 名の参加申込がありました。講演については「のぞみ」203 号に講演録を掲載し、報告いたしました。

講 演
「小児がんの移行期医療」 国立成育医療研究センター小児がんセンター長 松本 公一 先生

13 クリスマスプレゼント

今年はコロナ禍の中でも治療を頑張っている子どもたちが少しでも笑顔になれるようにと例年お届けできていない全国の小児病棟へもお贈りしたいと夏頃からプレゼントご協力をお願いを当会ホームページやブログにてご案内させていただきました。企業の方からだけでなく、当会ブログをご覧になられた個人の方から Amazon のウィッシュリストもご活用いただき、今年は 100 人近い全国のサンタさんから心温まるプレゼントを贈っていただきました。皆さまからお預かりしたプレゼントは、当会の支部や親の会、また小児がん治療に携わる医療者の方を通じて、全国 57 か所の小児科病棟に入院中の子どもたちや在宅療養中の子どもたち、合わせて約 2,000 人にお届けすることができました。

ご支援いただいた皆様

大原薬品工業株式会社、エア・ウォーターメディカル株式会社、株式会社健明、有限会社 金一重量、子供地球基金、スタイリングライフ グループ、株式会社大和証券グループ本社、（一般社団法人）日本建設業連合会、日本データカード株式会社、ニューエラジャパン合同会社、ブリストル・マイヤーズ スクイブ株式会社、モルガン・スタンレー、大成建設株式会社 他、個人の方々からも多数のプレゼントをご支援いただきました。



14 企業・団体からのご協力（敬称略・順不同）

物品寄付

株式会社健明、久留米高牟礼ライオンズクラブ、東京メディカルライオンズクラブ、株式会社ガイア、株式会社インテリム、ニューエラジャパン合同会社、株式会社大和証券グループ本社、スタイリングライフ グループ、クローズ バイ ジャパン、株式会社エトロジャパン、大阪府宅地建物取引業協会中央支部 他

ご招待

アフラック生命保険会社、毎日新聞社、川畠成道音楽事務所 他

募金活動、他ボランティア活動

アフラック生命保険株式会社、モルガン・スタンレー 他

～その他、支部においてもたくさんの企業・団体さまからご支援いただきました～



寄付・募金者一覧

(2020年4月1日～2021年3月31日)

寄付・募金者一覧



寄付者一覧

※敬称略

+81WIN A.FAMILY株式会社 AGCマイクロガラス株式会社 株式会社 ASP BONBON CANDY にじいろじかん CBC株式会社 株式会社 CES.緑研究所 株式会社 CFP Harvey Paul A.S. JFE商事株式会社 JFEスチール株式会社 LEE DONGHAE NPO法人 目黒ユネスコ協会 株式会社 PLUS ONE ST.BALDRICK'S FOUNDATION Sthree株式会社 株式会社 アース保険事務所 相川 勝 愛知製鋼株式会社 相原 大和 青木 茂 青木 千賀 青木 嘉仁 秋元 正幸 秋本 俊治 秋山 恵子 秋山 由里子 株式会社 アコーセラミック 浅田 博司 浅見 美紀 東 博行 東 裕也 阿蘇ライオンズクラブ 足立 義一 ADDO RICHARD ASARE アフラック生命保険株式会社 社会公共活動推進室 アフラック横浜支社 アフラック青森支社 アフラック大分支社 アフラック四国提携金融社 アフラック道央アソシエイツ会 アフラック東京アソシエイツ会 アフラック広島県アソシエイツ会 アフラック三重県アソシエイツ会 アボットジャパン株式会社 天野 功二 天野 幸子 アムンディ・ジャパン株式会社 新井 孝史 荒川 佳枝 荒木 真悟 安斎 紀 株式会社 安心ほけんL.S LEE EOL 飯島 佐和子 飯塚 敦夫 飯塚カトレアライオンズクラブ	五百川 麻子 五十嵐 香織 五十嵐 央 池田 修子 伊佐 龍寿 諫早中央ライオンズクラブ 石井 元気 石井 正之 石上 久美 石川 孝成 石川 幸雄 石黒 寛之 石橋 広隆 石橋 里美 石原 節子 石原 貴泰 石原 直子 石村 和江 LeeJoonku 泉 由幸 市川 瑞穂 株式会社 一の宮カントリー倶楽部 井出 智子 伊藤 直美 伊藤 尚子 伊藤忠商事株式会社 糸数 修一 稲畑産業株式会社 井上 順子 伊野波 盛俊 伊野波 盛郁 今井 淳之 今井 正 今井 千速 今井 真如 今村 房夫 井村 律子 井本 美和 井本 洋督 薔の会 入江 里美 医療法人すみれ会 中央病院 弁護士 岩上 公一 岩川 順一 岩倉 良昭 岩越 祥晃 岩崎 公子 岩崎 淳子 岩田 吉郎 岩谷産業株式会社 ゆうた ウェスブ ペーター 植田 俊矢 上野 慎治 上野 祐司 上野 佳子 上橋 真理子	内田 ひろ子 内田 裕之 内野宮 ふよ子 鷗木 衣理 海のそばのカフェ bliss point 梅田 憲嗣 株式会社 梅原洋紙店 浦辺 美和 エア・ウォーター・メディカル株式会社 株式会社 エイティー イーザイ株式会社 イーザイ株式会社 筑波研究所 株式会社 Agent 江戸 靖浩 植松 貴美子 株式会社 エミシエ 代表取締役 山田 晋 遠藤 明 大浦 幸子 大浦 真理子 大木 綱雄 大久保 俊樹 大久保 一恵 大蔵 隆彦 大阪ヴァイオレットライオンズクラブ 大阪赤十字病院入院支援課 社会福祉法人 大阪府母子寡婦福祉連合会 大崎 誠 大島 泰子 大須賀 ひさ子 atelier にじのまにま 太田 浩史 大高 克志 大津 真由美 大場 幸夫 大原小児がん基金 大引 啓次 大牟田デイズライオンズクラブ 大村ライオンズクラブ 大森 豊寛 大屋 治子 株式会社 OKAZAKI 岡崎 節子 緒方 節治 岡田 学 岡田 美祐 岡部 美樹 岡本 英理子 岡本 幸一 小川 節子 ジュテーム坂戸 奥川 研二 奥野 達也 奥本 純一 小倉 敏雄 刑部 有紀 尾崎 亜矢子 小澤 勝己	小城天山ライオンズクラブ 小田切 喜一 落合 章 落合 仁 小友 勇人 小野 智久 おのうえこどもクリニック 海田 由美子 楓 千里 花王株式会社 香川 拓也 香川大学医学部付属病院 蛸田 満里子 笠井 功治 笠井 千晴 片倉 政人 片山 建二 勝浦 広基 勝瀬 求 加藤 孝 加藤 友和 加藤 仁義 加藤 廣久 加藤 直子 金山 直司 金子 武行 兼松株式会社 鎌田 政之 亀井 加代子 鴨作 卓弥 唐津ライオンズクラブ 唐津キャッスルライオンズクラブ 唐津レインボーライオンズクラブ 刈谷 雅夫 軽部 裕美子 河合 郁子様方 河合 豊勝 川口 弘二 株式会社 シーアールエス 河出 トシ がんのバカ野郎事務局 菊池 寿美 菊地 真幸 岸田 恭二 雉子亭 豊栄荘 貴嶋 憲太郎 岸本 新平 北九州勝山足立ライオンズクラブ 北原 義明 北見 紀男 北村 眞法 北山 晃 キッコーマン株式会社 城所 昌宏 木下 成顕 木原 陽佑 キムジェファン&+81WIN 木村 猛
---	--	--	---

木村 蓮実 きもべつ喜らめきの郷 キヤノン株式会社 キヤノンメディカルシステムズ株式会社 九州大学病院 協和キリン株式会社 有限会社 金一重量 株式会社 クオインタムジャパン 日下部 浩 株式会社 草むしり 楠井 晶 葛西 一良 久保 香 久保木 裕子 久保田 一男 窪田 貢 熊谷 則一 隈崎 哲也 熊本菊南ライオンズクラブ 熊本歯科衛生士専門学院 熊本ライオンズクラブ 栗山 巧 栗山 宣夫 樹沢 静枝 クリアゴルフフィールド 暮部 勢子 呉ポートライオンズクラブ 株式会社 グローウィング 黒川 征治 黒木 智 黒羽 薫 桑原 浩 県立がんセンター新潟病院 小泉 美貴 〇加ライオンズクラブ 合志ライオンズクラブ 合同会社 MAM&d. 鴻池・平井特定建設工事共同体 株式会社 神戸製鋼所 興和株式会社 古賀 栄子 コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社 古賀印刷株式会社 小鍛冶 航 国際医療健康推進センター株式会社 国際ライオンズクラブ337-B地区三重ライオンズクラブ 小島 昌子 後藤 雅 五島橋ライオンズクラブ 小林 泉 小林 宗一 小林 美奈子 駒村 幸雄 小宮 毅 小室 三男 財津 克典 斉藤 孝 斎藤 正博 齋藤 雅世 株式会社 材料屋 酒井 あゆみ 坂井 恵子 榊原 悠児 榊原 義夫 坂口 陽子	株式会社 阪口メンテナンス 坂田 年 佐賀中央ライオンズクラブ 酒徳 浩之 佐賀西ライオンズクラブ 阪本 哲男 櫻井 由香里 櫻庭 かをり 笹川 泰弘 佐々木 大輔 佐世保南ライオンズクラブ 佐世保ライオンズクラブ 佐藤 明子 佐藤 公則 佐藤 浩樹 佐藤 雅敏 佐藤 町子 佐藤 稔 佐用 敏彦 株式会社 さわ 澤田 敦子 沢田 祐子 澤邊 めぐみ 株式会社 三平商会 塩津 伸司 塩山 寧子 株式会社 資生堂 篠田 章 篠原 百合子 柴田 和子 芝田 真美子 渋江 美恵子 澁江 美加 渋谷 幸枝 島 治伸 島田 佳奈子 島田 早苗 島田 健司 島野 忠之 清水 義仁 清水建設株式会社 志村 朱美 志村 美紀 下園 雄治 下林 正大 下平 武明 一般社団法人 ジャパンケネルクラブ 大阪ブロック協議会 荘司 英彦 城南堂薬局 白石 量子 白井松新薬株式会社 白神 洋子 白川 美智恵 秦 舞 神 美幸 一般社団法人 信託協会 新谷 葵 末次 章子 杉田 完爾 杉本 幹生 杉本 洋一 カレンカップ 鈴木 亜津子 鈴木 彩 鈴木 毅	鈴木 千穂 鈴木 久夫 鈴木 美文 住友商事株式会社 一般社団法人 生命保険協会 関 真幸 関水 麻衣 一般社団法人 全国銀行協会 仙波 結希萌 株式会社 相建 双日株式会社 曾我 高臣 曾根 宏磯 園 克彦 空谷 虎隼 第一生命保険株式会社 本町事業所 第一生命保険株式会社 関西コンサルティング営業部 第一生命労働組合 首都圏営業本部コンサルティング営業室 だいき動物病院 高橋 大成建設株式会社 大日本住友製薬株式会社 平 哲也 大理石村・ロックハート城 多賀 哲男 高江洲 義尚 高木 えり絵 高瀬 一使徒 高田 明子 高田 尊信 高田 圭之 高橋 和子 高橋 建太 高橋 晶子 高橋 則子 高橋 春佳 高橋 秀治 高橋 まどか 高畑 由希子 有限会社 タカハラ 高松 佐代子 高山 香世 光の会 代表 高山 雅美 滝口 史 多久ライオンズクラブ 武井 祐貴 武石 香 竹島 開 竹島 博一 竹部 真那美 竹村 統成 田尻 健 田代 和也 田中 千鶴子 田中 達男 田中 ひとみ 田中 浩喜 田中 正希 田中 雄 田辺 真理 田辺三菱製薬株式会社 谷山 健太郎 田野 昭 田原 里子 玉井 宏明 玉川 京子	田村 孝子 千野 泰孝 中外製薬株式会社 中外製薬労働組合 ぼけっと基金 張 光陽 蝶理株式会社 珍田 律子 塚原 公男 辻 尚人 辻林 温子 津田 治 津田 留美 土屋 博義 手嶋 佐千子 手納 朋子 寺門 茂 寺田 昌史 寺田 翠 寺前 恵佳 トイグロジャパン株式会社 東京ウィルライオンズクラブ 東京マリオットホテル 東郷 清龍 東洋英和女学院小学部母の会 渡海 至康 栃木県保健福祉部 健康増進課 戸塚 忠幸 一般財団法人 凸版印刷三幸会 株式会社 トップツーシステム 土手 多喜子 留目 正寛 殿畑 正生 トビー工業株式会社 富田 基生 富山福祉短期大学 豊岡 正仁 豊田 純子 豊田通商株式会社 内藤 龍平 中尾 憲治 中川 隆 中込 悦雄 長崎オリオンライオンズクラブ 中澤 和男 「ぬくもり山梨」中澤 治美 中澤 弘美 中嶋 幸生 長島 雄太 長瀬産業株式会社 永田 健吾 中田 誠一郎 中津ライオンズクラブ 中西 功 中野 澄枝 中野 啓史 長野 真由美 長場 直子 中鉢 鈴子 永原 勢津子 永光 祐子 中村 桂井子 中村 大介 中村 希 中村 満 中村 良樹
---	--	---	--



中村 美子 仲本 千佳子 中山 恵介 中山 千絵 長与ライオンズクラブ 南雲 晃 株式会社 なゆた 奈良崎 章子 成岡 千絵 成田 幸子 名和 久子 南部 昌弘 新潟県信用農業協同組合連合会 新名 功二郎 新村 昌弘 西 正 西 雪絵 西井 一博 西川 克己 西川 信吾 西田 知佳子 西出 稔 西村 浩志 西村 小夜子 株式会社 日幸金属工業所 日鉄物産 株式会社 二宮 和子 一般社団法人 日本CL建設のな生き方学会 日本医科大学千葉北総病院 一般社団法人 日本ガス協会 一般社団法人 日本建設業連合会 一般社団法人 日本建設業連合会 社会貢献活動協議会 日本製紙連合会 日本製鉄株式会社 日本チャールス・リバー株式会社 日本チャールス・リバー株式会社 厚木飼育センター 日本労働組合総連合会 株式会社 ニヤクコーポレーション 野島 尚恵 野田 文美 ノバルティス ファーマ株式会社 稲田 浩子 野別 知栄子 野元 善文 株式会社 パーフェクトサンデー ハイツオーク 萩原 明子 波佐見ライオンズクラブ 橋都 浩平 馬上 星一 馬上 豊 長谷川 朝直 長谷川 眞砂子 服部 俊司 大口 忠 大口 都史子 パナソニックホームズ株式会社 株式会社 はなまる 馬場 悦子 濱 克彦 浜谷 秀孝 早川 晶 早川 英子 早川 真弓 林 志郎	林 仁 林 正彦 林 雅彦 早田 千鶴子 速水 節子 原 豊 原口 美加子 原田 恵美子 原田 昌和 針生 清高 半澤 道子 石橋 赳志 阪和興業株式会社 株式会社 ビーエル 稗苗 京子 東山 ともみ 東山内科・小児科 樋口 明子 樋口 厚子 樋口 克次 樋口 清江 肥後東ライオンズクラブ 久留 勝徳 株式会社 日立ハイテク 日田ライオンズクラブ 火ノ川 好信 株式会社 Human 平井 俊子 平井 博夫 平尾 美和 平澤 和美 平戸ライオンズクラブ 平山 忠之 広羽 一昭 廣村 努 株式会社 ファンコミュニケーションズ 株式会社 Fortune KK 深澤 晋 福井市総合ボランティアセンター 福岡玄海ライオンズクラブ 福生 泰彦 福田 佳子 福地 誠一郎 藤川 京子 藤田 裕美子 富士電機株式会社 藤沼 公紀 藤沼 春海 藤村 正 藤本 敏彦 藤本建設株式会社 藤山 優子 武州製薬株式会社 武州製薬ユニオン 藤原 香代美 二井 立恵 一般社団法人 不動産協会 古川 知子 古嶋 禎子 株式会社 フレーズ 普連土学園 宗教委員会 別所 文雄 ベルテック トレーディング株式会社 許 南浩 認定特定非営利活動法人 朴の会	朴木 寛弥 星山 美穂 細井 廣一 細田 裕美 医療法人社団 まつもと小児科 穂波ライオンズクラブ ほのぼのサロン 堀川 哲男 堀口 悦子 公益財団法人 毎日新聞東京社会事業団 前田 秀子 牧 雄太 眞尾 貴年 増田 勝治 増田 精子 榎谷 真 松井 秀文 松浦ライオンズクラブ 松尾 具明 松川 景子 松阪 直美 松島 光 松田 信夫 松谷 佳代 松永 憲一郎 松本 淳子 トータルサポート 松本 登紀子 松本 由樹子 眞鍋 夏子 丸紅株式会社 丸和バイオケミカル株式会社 三浦 厚子 三浦 千賀子 三養基ライオンズクラブ 三上 正美 三上 悦子 水江 伸夫 水柿 多香子 水代 富雄 三井物産株式会社 光田 美津子 三橋 治美 三菱商事株式会社 三菱電機株式会社 水俣ライオンズクラブ 峰岸 透 簗輪 憲一郎 御船ライオンズクラブ 宮城 智央 都城ライオンズクラブ 宮崎 志保 宮里 裕子 宮澤 敦子 宮野 愛加 宮野 愛在 宮本 弘隆 むた歯科医院 村越 美香 村松 毅 村山 将人 室谷 哲哉 明治安田生命保険相互会社 目黒 悦子 母谷 宏美	モデラート株式会社 元田 雅弘 本山 寛 基山ライオンズクラブ 森 賢治 森 久倫 森 陽子 森山 健一 森山 康基 守山内科・小児科 森脇 浩一 モルガン・スタンレー 八重山ライオンズクラブ 八代球磨川ライオンズクラブ 安島 竜也 安田 省三 柳澤 隆昭 柳野 希代子 柳本 雅夫 山形県庄内総合支庁 八巻 恭治 山口 利子 やまさき えりか 山崎 聡 山崎 文之 山崎 美恵子 山崎 隆一 山下 公輔 山下 雄一 山田 勝三 山田 崇雄 山田 雄介 山田 容子 大和 健一 山部 智寿 山室 由美子 山本 章子 野口 明美 山本 暁彦 山本 勝利 山本 栄 山本 信江 山本 麻衣 山本 雅樹 山本 康子 山本 泰裕 山本 和加子 結城 圭子 株式会社 ケーディーエム 有限会社 築地にしん太助 有限会社 松田興業 有限会社 大瀬設備事務所 有限会社 キャピタル 有限会社 中村産業 有限責任事業組合 チャイルドケア研究所 行橋ライオンズクラブ 株式会社 ユメテラス 横井 知美 横幕 航平 横山 亮子 吉井 智美 吉岡 幸代 吉岡 佑樹 吉川 隆 吉川 直子
---	---	---	--

吉野 純爾 吉野 智子 株式会社 吉半 吉村 公一 義村 みつ 吉本 哲也 吉山 さと子 株式会社 淀川製鋼所	米倉 邦子 米山 望 代々木大山歯科医院 ラ・フランス 税所 千秋 ライオンズクラブ国際協会330 C地区 ライオンズクラブ松山キャビネット ライオンズクラブ国際協会332-B地区 ライオンズクラブ国際協会334-D地区 5R-2Z	ライオンズクラブ国際協会332-F地区 ライオンズクラブ国際協会332複合地区ガバナー協議会 ライオンズクラブ国際協会336-B地区ガバナー 小野 宗次 ライオンズクラブ国際協会337-A地区ガバナー 細 寛江 LIVE EMPOWER CHILDREN2020 ラッセル・インベストメント株式会社 李 清 Leaves and Bonds 株式会社	一般財団法人 緑風会 若杉 和枝 若松 みちえ 若松 梨沙 若生 みどり ワタキューセイモア株式会社 渡部 眞澄 渡邊 万里
--	---	--	---

上記の他、アフラック生命保険株式会社、アフラック販売代理店及び社員の皆様には、キッズサポートを通じてペアレンツハウス、ならびに小児がん経験者・がん遺児奨学金制度の運営をはじめとした当会の活動に数多くのご寄付（6,039件）をいただきました。

匿名ご希望の方からも多数ご寄付をいただいております。

募金者一覧

※敬称略

NPO 法人 M.A・ART BALLET COMPANY Shop ART YES (YOKOHAMA English Speakers) 医療法人三幸会 小澤診療所 医療法人正心会 たなか医院 医療法人 たにざき皮膚科クリニック 大原小児がん基金 岡部 美樹 岡山レモネードスタンドの会 片岡 裕美 株式会社 Fortune KK	株式会社 K2 インターナショナルジャパン 吉祥寺 ひまり屋 公孫会 新潟支部 税理士法人 松本 聖路加小児医療センター セレーナ・マリア トライム ソフトバンク株式会社 第一生命労働組合 上野総合支部 東京メディカルライオンズクラブ 長澤 一成	中田中央歯科医院 西濱 亮介 日本チャールス・リバー株式会社 沼津経営塾 浜磯こだま商店 北京 高棚店 水琴トライムボランティア連合 道の駅 伊豆ゲートウェイ函南 道の駅 風穴の里 桃沢野外活動センター ヤフー株式会社	有限会社 築地にしん太助 有限会社 永楽食堂 有限会社 酒ハウス ヤマヤ 有限会社 ミートステーション 李 清 龍津寺 レスリーチャンバースデー募金 レモネードスタンド in ふくおか 実行委員会 ローソン浜寺石津西 4 丁店
---	---	---	---

他、多くの方からご支援をいただきました。ありがとうございました。

※当会では寄付金について以下の通り取り扱っております。

- 寄付：特定の個人や法人から集まった募金
- 募金：不特定多数の方からの支援金（募金箱やイベント会場など）

公益財団法人がんの子どもを守る会2020年度事業報告書

2020年4月1日～2021年3月31日

2021年6月9日 発行

公益財団法人がんの子どもを守る会

〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-3-12
TEL03-5825-6311(代表)